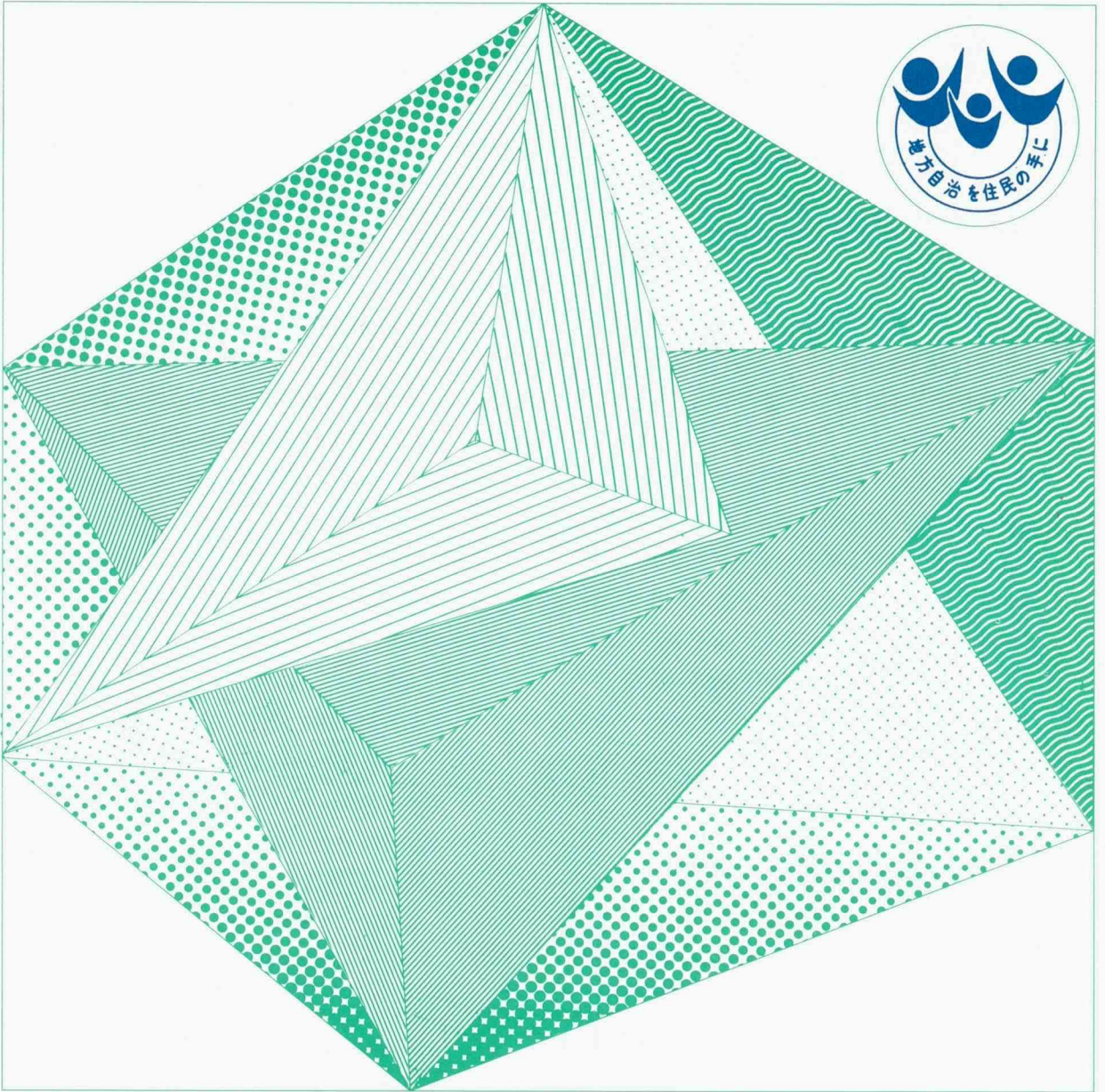


自治研報 かながわ

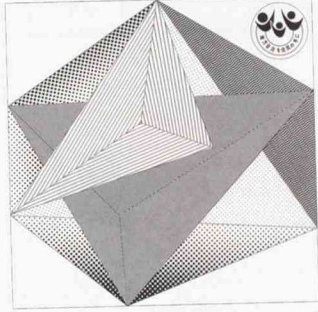
1991

8

No.30 (通算94) 特集：91年統一自治体選挙をふりかえって



社団法人 神奈川県地方自治研究センター



もくじ** * CONTENTS

特集：91年統一自治体選挙をふりかえって

1. 政党政治の衰弱と市民政治の成長…………… 1
中央大学教授 横山桂次
2. 県内の選挙結果
争点なき選挙、保守回帰の中に環境問題…………… 6
神奈川新聞 記者 藤井 稔

フリーディスカッション

- その1. 全体的結果をどうみるか…………… 10
- その2. 社会党改革をめぐる…………… 14
- その3. 政党・労働組合・市民運動との関係…………… 19

資 料

1. 全国統一自治体選挙の結果…………… 24
2. 県内91統一自治体選挙の記録…………… 29

特集：91年統一自治体選挙をふりかえって

【問題提起1.】

政党政治の衰弱と市民政治の成長

中央大学名誉教授 横山 桂次
(県自治研センター理事長)

1. 多党支援の首長圧勝 自民党の一人勝ちの議会選

統一地方選の分析は、毎回当自治研センターの研究会で行うことになっておりますが、本日は神奈川新聞の方もお招きしておりますので、神奈川県分析はそちらからお話を戴くことにしまして、私は、全国的な傾向を申し上げたいと思います。

これは言いつくされたことではありますが、選挙の結果を特徴づけてみますと、時代の変化に対して政治の方は非常に遅れているということが総体として言えると思います。

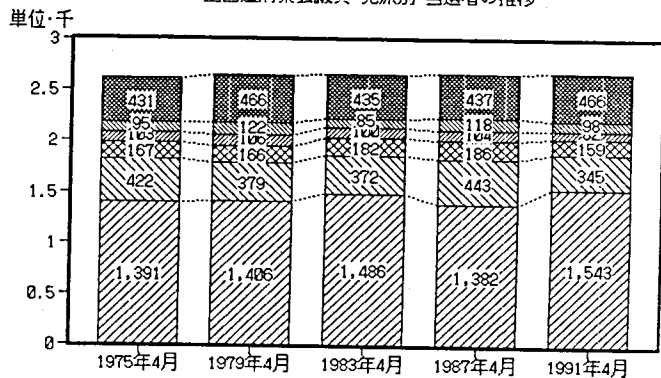
まず、都道府県の13の知事選挙では、多党支持の候補が圧勝したことが特徴です。保革相乗りを含めた現職知事が圧倒的な強みを発揮したのが、秋田、茨城、神奈川、福井、鳥取、大分、などの県です。革新知事といわれた北海道、福岡の現職もそれぞれ圧勝しました。新人同士の闘いでは、大阪では副知事が連合型選挙で多党をまとめ圧勝し、岩手、佐賀では自公民の推薦をうけた新人

が圧勝しています。

唯一の激戦といわれたのが東京都知事選です。自民党が中央地方とでネジレ現象をおこし、現職の鈴木知事が自公民推薦の新人のニュースキャスターを破ったわけです。この選挙だけが今回の最激戦であり、この選挙の対応の良否が全国に影響を与えたといえます。この他は、札幌市長選挙を含めて現職か、多党支持候補の楽勝パターンに終わったと思います。

第2ラウンドに行われた125の市長選挙でも保革相乗りが36市、保守系及び中道が82市と保革相乗り・保守中道の候補者が圧倒的な強みを発揮しました。しかも現職が78人であり新人は44人と少なくなっています。

全国道府県会議員 党派別 当選者の推移



自民党 社会党 公明党 民社党 共産党 無所属他

政党別に選挙の結果を見れば、自民党の一人勝ち、と言えます。資料に出ておりますが、新聞には「社会党の敗北が目立つ」と書かれております。

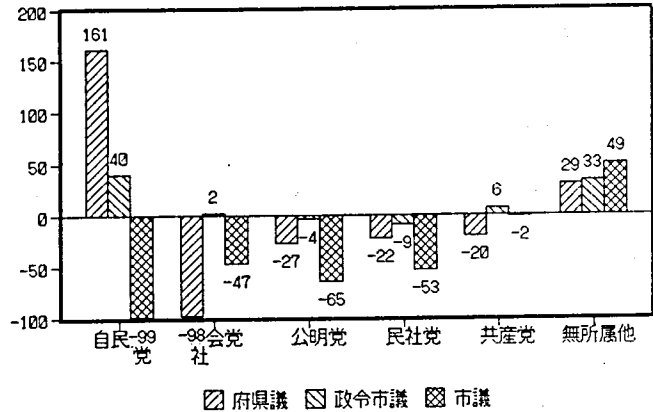
自民党の一人勝ち＝議員選

第1ラウンドの44の道府県議員の選挙では、自民党が161議席増やしたのに対して、社会党が98減、公明党27減、民社党22減、共産党20減であり、確かに自民党の一人勝ちです。10の政令指定都市議員選では、自民党が40議席増やしたのに対して、共産党6、社会党2議席の増加であり、民社の9減、公明党4減であった。政令市は88年に仙台市が加わっているの、仙台市の増加を除けば、実質的には自民党の一人勝ちということになるだろうと思います。

第2ラウンドでは、全体的には余り大きな変化がみられなかったように思われます。市会選挙では、定数そのものが選挙実施自治体が2市減少し定員削減もあって246減少されたわけですが、自民党98、公明党65、民社党53、社会党47、共産党2がそれぞれなかよく減少しています。

自民党は無所属が36増加しているのあまり変化なしという結果であり、公明・民社両党の減少が目につき、社会党の減少より大きかったようです。町村議会では統一選挙の実施自治

91選挙の党派別増減数



体が8減少したのと、定数の削減があり、522議席が減少しているのが注目されます。選挙結果は公明党の減少が目についた程度です。

政党別でみる限り、自民党の一人勝ちの傾向は県・政令市ではっきり現れており、社会党は県議では最低の水準となり、政令市でもふるわなかった。そして、選挙毎に議席を増加させてきた公明党が、今回の選挙で一転して減少し、民社党も県・政令市で減少しました。

いくつかの特徴を述べますと、野党側の無気力・敗北にもかかわらず、無党派の女性の候補がかなり健闘している、と言えると思います。これは全国的な傾向として指摘できます。

無投票当選と低投票率

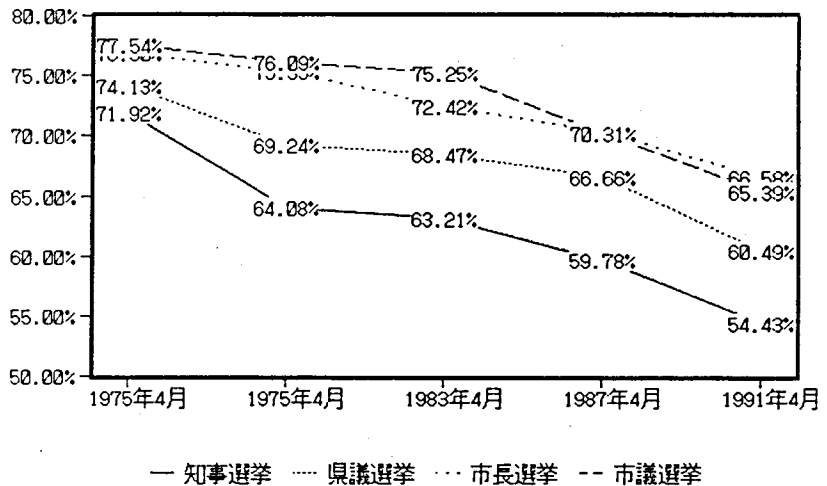
ただ、重要なのは、非常に投票率が低かった、ということです。これはグラフにも出ていますが、知事選挙の投票率が全国平均で54.4%、県議

全国 無投票当選者の推移

	県議会	政令市議	特別区	市議	町村議	合計	市長	町村長
1975年4月	103	0	0	37	805	945	22	347
1975年4月	485	5	0	178	2,040	2,708	50	404
1983年4月	80	0	0	86	2,192	2,358	46	388
1987年4月	183	33	0	159	2,649	3,024	34	348
1991年4月	583	11	0	239	3,785	4,618	40	320
無投票当選率	21.6%	1.5%	0.0%	2.1%	18.4%	12.7%	32.0%	18.4%

選では60.5%、第2ラウンドの市議選で65.4%、町村議選で66.6%といずれも最低の投票率となっています。投票率の低下傾向はこの5回の選挙を通じて毎回続いており、地方選挙が大きく変わるメルクマールになるのは1975年と考えていますが、その時期と比べるとかなり低くなっています。

全国統一自治体選挙の投票率の推移



また、無投票当選が非常に多くなっています。これは資料にありますが、県議の無投票当選者が583人というのはこれまでで最も多い数で、全選挙区の33%であり全議席の21.6%に該当し、これまでの最高だった79年の85人を大幅に上まわるものでした。第2ラウンドでも無投票が続出し、市議選で9市で239人、町村議選では実に3,785人（議席総数の18.4%）となっています。

これと並んで首長選挙での無投票当選の多いのも気にかかります。知事と政令指定市ではさすがに無投票はなかったものの、40の市長（選挙があった自治体のうち32%）、320の町村長（選挙があった自治体のうち約50%）にも達しているのです。

2. 政党政治の不信、地域政治の衰弱

この低投票率と無投票当選が多いのをどうみるかということですが、一つは政治不信あるいは政党政治に対する不信が出たという気がしています。選挙に対する魅力が低下しているとい

うことは、とりもなおさず、地域政治が衰弱しているということでもあるわけです。

自民党の腐敗が依然として直っていないのです。それに加えて、自民党あるいは保守政党の理想的な政治像が見えないという意味で、政権党としての政治的なリーダーシップが欠如しているのです。その一方で利益配分の政治が露骨に定着してきている。イデオロギー政治から利益配分の政治、というのは久しく言われているわけですが、そこから全然脱却できていないのが現実です。

それに対して野党側にも問題があります。特に野党第一党である社会党が、政治理念の提起、それにつながる政策提起が充分出来ていない。その最も悪しき象徴として現れたのが都知事選挙であると言えます。候補者選びが難航し、中央本部が断念した後に候補者が選挙直前で決まったものの、選挙結果は惨敗です。しかも、選挙後の都知事と社会党との政策協定も誰からみても非常にわかりにくい。その辺に社会党の問題点が露呈してきていると言って良いのではないかと思います。

それから政党政治と地域政治の衰弱という点

で最も重要なのは、市長選挙あるいは首長選挙における保革連合がますます進展しているということです。これは地域政治における争点不明瞭になることにつながりますし、先にみた、投票率の低下がこれを証明しています。

同時に官僚のリーダーシップ、天下り官僚が首長になることを含めて、都道府県における官僚のリーダーシップがますます強くなるということの意味します。「政治の行政化」が、「政治」というものがますます見えなくなってくる。自治体自身が政治団体であることを忘れてしまっている、もしくは気にしなくなっているようにも見受けられます。

かつて革新自治体が誕生し、増えてきた1960年代前半から70年代に到る時期には、地域政治に関する熱気というものが市民の中に見られたわけですが、それが今日では全く見られないのです。その辺が政党政治に対する不満をますます増幅させているのではないか、と思います。

それには、市民の側からの政治に対する変化もあります。それが今回の選挙でどの程度出ていたか、というような視点から問題を出してみ

たいと思います。

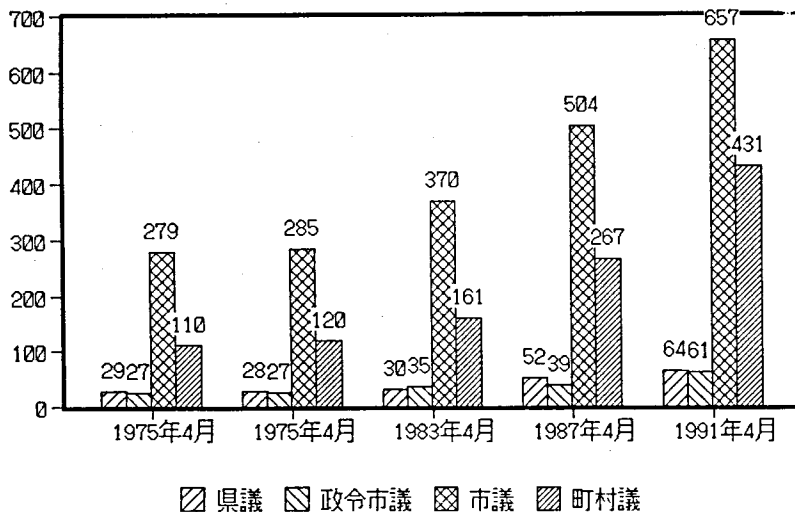
3. 女性の進出、市民の政治的成長

まず、女性の当選者が全国的に増加傾向にあることも今回目についたわけです。県議や政令市議では、早くから女性の進出がみられましたが、前回よりも県会で12名政令市で22名増えています。市議と町村議員での増加が特に目立ち、市議で153名、町村議では164名とそれぞれ大幅に増加しているのです。議席数に占める女性の割合は、東京特別区議が11.7%と最も高く、政令市議が8.3%とこれに続き、一般市議では5.8%ですが、府県議と町村議は2%台にとどまっています。都市化の傾向と女性の進出相関関係がみられるのです。その中でもいくつかの特徴がみられます。たとえば神奈川ネットワーク運動のような運動が東京でもあります。千葉・埼玉・札幌でも議員が生まれました。東京が30、神奈川が26、正確な数字は後で記

しますが、前回から比べると、かなり数は増えています。このような増え方は先程述べた政治不信とどう結びつくのか、というのが私なりのテーマです。

早い話が、男のデモクラシーと女のデモクラシーというように言ってみますと、男のデモクラシーは天下・国家を論じることであるのですが、女のデモクラシーは生活と地域という所でモノを考え

全国 女性議員当選者数の推移（統一選）



るという違いがあると思います。女のデモクラシーはそれを「生活者政治」、という言葉で表現しています。そして女性の議員が増えてきているのですが、その増えている程度に生活者政治という言葉や意味が浸透しているかという点と少し疑問です。

男の政治・女の政治

というのも、ネットワーク運動が出てきた力というのは、組織力であり、非組織の人は非常に少ない。これが神奈川ネットワーク運動の問題点であると思います。一般的には政治の変化を求めているのは確かなのですが、それが生活者政治と結びついている、とは言えない。オルタナティブを求めている市民の側から、オルタナティブのイメージが出し切れていないのではないか、と思います。

これは今後の課題だと思いますが、組織の拡大と議員の増え方を見ていると、運動の仕方が閉鎖的ではないか、という印象があります。前回と今回の選挙の比較をしてみますと、効率という点では前回の方が高かった。前回は川崎の投票率が60.6%、横浜で55%。今回は川崎が49.3%、横浜が46%、得票率は前回

が7.6%、今回が6.7%、ここからも言えるのではないかと思います。

それから今回芦屋で女性市長が誕生しています。その辺の経過は私はよく知りませんが、調査してみると面白いと思います。

いずれにしても、私たちは市民の政治的成長、というのを見ていかなければならない。市民が地域政治の中である程度の役割を果たし始めているし、今後リーダーシップをとるだろうと期待しているのですが、それだけで地域政治が変わられるかという点と非常にむずかしい。その条件をどうつくるかということですが、一つは野党がどう市民に接近できるか、あるいは両者が連帯をつくる条件をつくることできるか。それから今の労働組合はまだ市民と結びついていないとは言えないが、今後市民と連携して、政治の力になっていけるようなものをどう構築するか、ということになると思います。これは我々が地域構造研究会という名の下に地域政治の分析を行う目標でもありますので、今回の統一地方選が何を物語っているのか、ということをやっと深く分析していきたい、と思います。

私の方からはごく大雑把に全国的な統一自治体選挙の結果について申し上げました。

統一自治体選挙の結果

全国 女性の当選者の推移

	県議会	政令市議	特別区	市議	町村議	合計
1975年4月	29	27	72	279	110	517
1975年4月	28	27	73	285	120	533
1983年4月	30	35	80	370	161	676
1987年4月	52	39	94	504	267	956
1991年4月	64	61	121	657	431	1,334
議席の割合	2.4%	8.3%	11.7%	5.8%	2.1%	3.7%

特集：91年統一自治体選挙をふりかえって

【問題提起2】

県内の選挙結果 争点なき選挙、保守回帰の中に環境問題

神奈川新聞 記者 藤井 稔

1. 自民党の勝利 市民派の進出

政治のプロの皆さんの前に出てくるのは気がひけるのですが、素人なりに神奈川県内の情勢を考えてみたことをお話してみたいと思います。

今回の選挙の争点は何だろうと私たちは探ったのですが、結局争点はなかったといわざるをえないのです。湾岸戦争がもっと長引いていけば、海外派兵問題等で野党に追い風が吹いたかもしれませんが、早期に終結したのでその点での争点はなくなり、私たちも紙面づくりには苦勞しました。そうした中で行われた選挙であったと言えます。

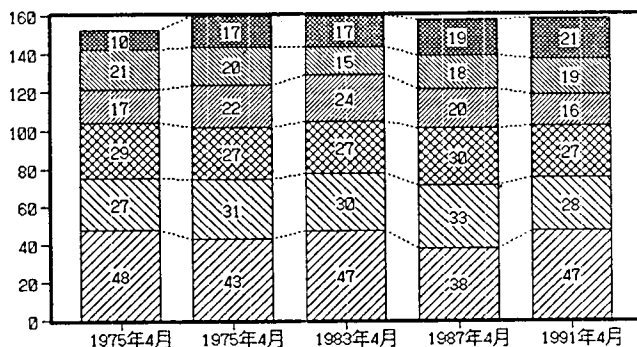
県内の選挙結果をかいつまんでいえば、自民党が勝利して、社会党も現状維持ないしプラスアルファ、公明党も手堅いが、民社党は退潮に歯止めをかけられず、共産党も完敗。県議選についてはそういう状況だと思えます。この結果、同時に行われた県知事選挙で長洲知事が5選を果たしましたが、保守系無所属の県政会が議案に賛成しないと社・公・民

の「小教与党」ということになり、かなり県政の運営上は苦しい状況になったといえましょう。

政令市議選挙では、自民党が大きく議席を伸ばしたのに対して、社会党が現職議員のあいつぐ落選などで議席を減らし、公明・民社両党も減少という全国的傾向と同様の結果でした。このなかでネットの増加が目につき、川崎でははじめて交渉会派になり、台所の政治が受け入れられたものとして評価されています。

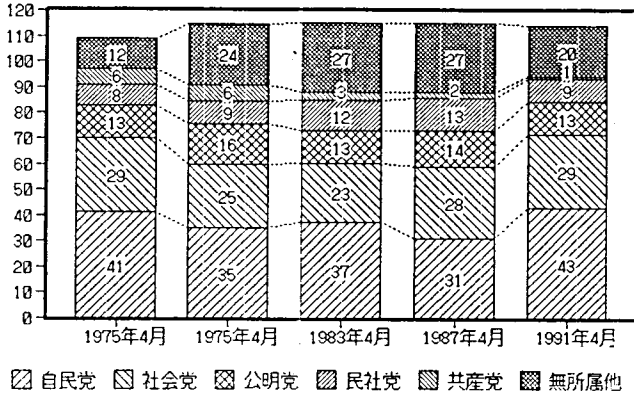
第2ラウンドでは、まず市長選は、大和の井上市長が無投票で再選されてものの、平塚・茅ヶ崎では保守系新人が現職に挑戦しました。平塚では新人が4千票差まで追いついたものの、現職石川市長が4選し、茅ヶ崎では根本市長が大差で3選を果たしました。南足柄では保守系

政令市議選 党派別当選者数の推移

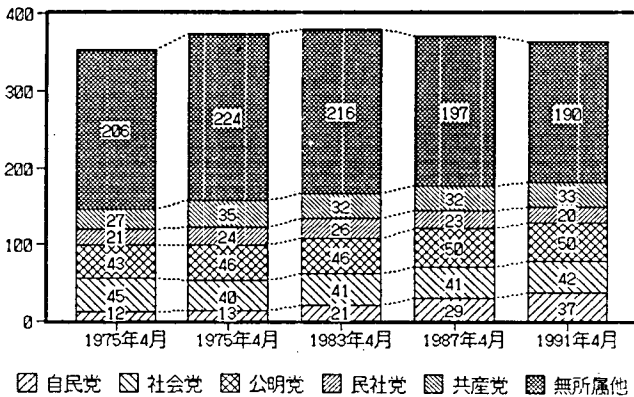


自民党 社会党 公明党 民社党 共産党 無所属他

県議選 党派別当選者数の推移



市議選(統一選) 党派別当選者数の推移



無所属の新人同士で争われたが、市議出身の鈴木氏が初当選をはたしました。町長選挙が唯一行われた湯河原町では、保守系無所属の現職と新人との争いとなりましたが、町議5期の新人丸山氏が現職の小沢町長を破って初当選しました。

市議選について言えば、ほとんど現状維持の傾向の中で、民社党が議席を若干減らし、ネットが議席を増やしました。ネットの進出は、既成政党に頼れないという現象を背景にしていると思います。たとえば、消費税や湾岸戦争などについて、期待した政党が思うようにやってくれない。そうした状況下で市民派が台頭してきた、というのが特徴としてあげられると思います。一つはネットであり、「生活者の政治」をにかけて女性の進出の先頭となったのでした。

もう一つ、横浜栄区で圏央道反対の皆川さんが横浜市議に当選された。それから保守的風土の強い足柄下郡でも、マンション反対をかけた新人が県会に立候補し、当選はできなかったものの善戦しました。その人は政治風土を変えよう、と地縁・血縁でない市民派選挙を展開しました。ミニ集会やホームパーティなどの地域での輪づくりをすすめて善戦しました。

それから、湯河原町長選でも、リゾートマンション反対という動きがあり、風土を変えよう、真鶴町長に続け、という動きがありました。また、7月には大磯町で町長選挙がありますが、昭和電工研究所に反対する候補が5人出馬するという情報があります。

市民派というのは、シングルイシューを掲げて出るといったイメージでしたが、今回の選挙では、既成政党の政治にあきたらないグループが台頭してきたという感じがします。その一方、横須賀市議選に基地反対を争点に立候補した鈴木さんは当選できませんでした。基地問題は重い問題ではありますが、難しかったということですが、全体として市民派が進出したのは言えると思います。

2. 新旧交替と保守回帰

それから新旧交代が進んだと言えます。県議選には新人が68人出馬し、28人が当選しました。横浜市議選でも48人出馬して、17人

当選、というようになり新人がでてきました。南足柄では、定数26のうち14人が新人です。新旧交代が進んで、政治が少しは若返るのかなという気がしています。歴史的にみると75年に新人の当選率が議席の35%近くであったのが最近では最も高く、今回は県会で24%政令市で23%です。前回より1%程度、新人の割合が高まったようです。でも、現職の占める割合は依然として7割をこえており現職が強いという現象はゆらいでいません。

それでも県議選の候補の党派別の平均年齢を見てみますと、自民党と社会党が53~4才、公明党と共産党が49才、民社党が51才。自社は高年齢の人が議席を占めている。労働組合の人が立候補する、候補がないから何期もやる、という状況があるのかもしれませんが。

それからもう一つ、保守回帰といいますが、全国的にも自民党は圧勝、社会党は敗北、といわれています。これは売上税のような自民党にとっての逆風がなかったこと。湾岸戦争も終結してしまっ、野党にとっての追い風もなかったこと、それから何もしてくれないじゃないかという野党に対する不満がわだかまっていたこと。それに保守は乱立すると潜在的な票を掘り起こす力が強いと言われていたことが、相模原で

は自民が乱立しながらも、きちんと票をとったように保守がかなり票を掘り起こしてきた。

有権者の方は、生活が向上したのであまり大きな変化は望んでいない。しかも保守の方も県民の声を吸い上げながらやっていますので、今のままでよい、という意識が強いと思います。

資金力という点では、89年の参院選の地方分で見ますと自民党が189億、共産党は289億と多いのですが、社会党は68億、公明党は39億、民社39億と保守の方がやはり多い。この資金の面からも強さはいえると思います。

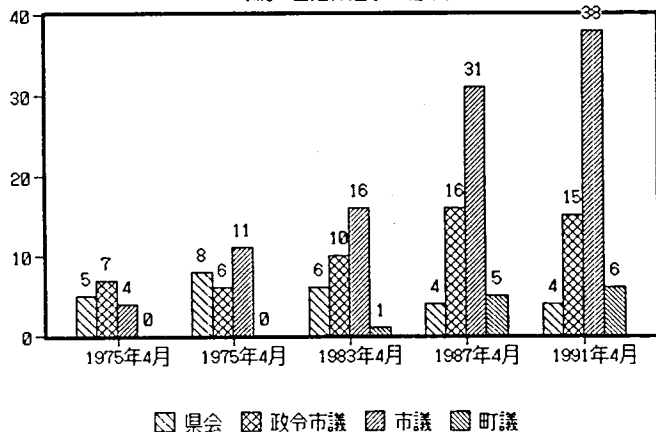
自民党は自分党と言われるように、地域に自分の後援会をつくっていきませんが、社会党はそれができずに労組を頼りにしている。日頃地域に足掛かりをきちんと持っておれば、という気がします。これらが重なって保守回帰という傾向が出てきたのだと思います。

3. 女性の進出・投票率の低下 そして連合の初登場

それからもう一つの特徴は、女性の進出です。前半では19人で前回よりも少し減りましたが、後半では44人になり、全体では大幅に女性が進出しています。しかし一方では大桃さんのような方も落選されていますので、女性だから当選できるというような状況ではなかったと思います。投票率でも女性の方が男性を上回ってしまっ、今後女性の支持をどう集めるかが大きなポイントになってくると思います。

しかしネットも「生活者の視点」を主張してこられた訳ですが、既成政党も生活者の視点を取り入れ始め

県内の女性議員当選者数の推移
(統一自治体選挙の結果)



ていますから、それだけでいつまでいけるのか、逆に政党に取り込まれていくのではないかと、という不安がないわけではありません。それから代理人だから任期は2期までという独自の仕組みが、3期以降は県会、あるいは国政へと段々上昇志向が出てくると、逆に生活者の視点が無くなってしまわないかと思ひます。その意味からもネットには今後注目していきたいと思ひますが、既成政党に取り込まれない新しい視点を見出さないと難しいのかなという気がしています。

それから投票率が極端に低かった、ということです。神奈川県ではもともと投票率は低く、県議・政令市議で55%程度でしたが、今回は知事・県議・政令市議のトリプル選挙であったにもかかわらず50%を大きく割り込んでしまいました。これは知事選が各党相乗りだった、ということで有権者が白けてしまった。その延長線上に選挙があり、政治についての関心が全く低くなってしまった、ということが原因ではないかと思ひます。

また、無投票当選が全国的にも多かった、ということですが、本県でも県議選では11選挙

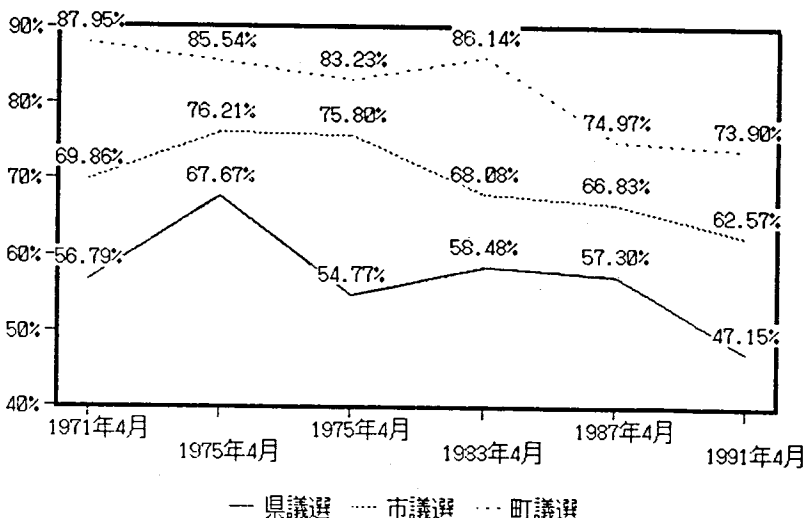
区の19人が無投票当選でした。これは昭和54年の6選挙区11人に比べてもはるかに多い。これはなぜなのかという点については、私は学者ではないので詳しくはわかりませんが、新人の出る芽がないのではないかと思ひます。特に郡部は地域割がしっかり出来ていて、新人が出てても当選する芽がないのであれば、わざわざお金を使って、しかも4年しか任期がない。その後はまたバクチのようなことをしなければならぬ。それでは、そのような不安定な職業につく候補者はなかなか見つからない。

ある代議士が「おれだって落ちたら後の面倒は誰も見てくれないよ」言っていました。選挙に落ちた後のフォローが不十分だな、という気がします。やはりそれでは新人はなかなか出られない。そのような中で、無投票が多くなったのだと思ひます。

それから今回大きな役割を果たしたのが、連合だと思ひます。政党にはこだわらないということで、県会では公明党の候補を推しました。横浜市会では鉄鋼労連の方を民社の議員として推した。両氏とも当選しましたが、労働組合が従来の支持政党にこだわらないで選挙運動を展開したわけです。

その象徴が知事選だと思ひますが、そこでも連合が大きな役割を果たした。5期目の出馬を迷っていた長洲知事に対して積極的に出馬要請し、選挙戦も初めての体制を組んで進めました。勝敗は決まっているようなものですが、いままで知らなかった組合員がはじめて一緒に選挙に取り組

県内 統一自治体選挙の投票率の推移



んだわけであり、それは今後も大きくなっていくと思います。

それから一つの特徴として、環境問題を避けて通れないという気がしました。圏央道や、湯河原のマンション規制の問題、大磯町の昭和電工問題などはもちろんですが、横須賀市議では一柳さんという方が当選しました。かれは東京湾の汚染問題を写真を通して訴えてきた人です。返子のこともありますし、これから環境問題を一つの視点にしていかないと、当選はおぼつか

ない、とは言えると思います。

以上、簡単に特徴を述べてきました。共産党・民社党の敗北については、民社党は相変わらずだし、共産党は批判勢力としては価値があると思いますが、どっちかというところ「わが道を行く」という部分が有権者に見えてきてしまったのではないかと、思います。

こんな所が今回の神奈川県内における統一選挙の特徴だったと思います。

フリーディスカッション

その1. 全体的結果をどうみるか

司会 (横山)

それでは資料も含めまして、ご意見がありましたら、伺いたいと思います。

追い風頼りの地域では敗北 (F氏)

今回の選挙結果を社会党に焦点をあててみますと、全国的にはご指摘にもありましたように「負けた」と思います。神奈川においては、政権政党をめざして3割増という目標には及ばなかったものの、政治状況を考えますと、それほど社会党が後退したとは言えないのではないかと思います。また、ネット所属議員の増加と無所属議員の増加が目につきます。

これらの背景には環境問題があり、現政権に批判的な勢力が進出してくる余地が多くあるということだと思います。今回の選挙を通じて社会党として考えられることは、前回の売上税、

消費税のような追い風を信じる部分をどうしてもすてきれない。狼が来るぞ、と言いながら、狼なんか来やしないぞ、という観念的なモノの見方がどこかにあったのではないかと、思います。ある程度の票を取りながら、落選している候補者が多い、という印象を受けましたが、読みが甘かったのではないかと、言う状況がある。これまでは追い風があまりにも吹き過ぎていた。その追い風を信じ過ぎる部分があったのではないかと、思います。

これから考えていかなければならないことは、連合という新しい組織ができましたので、それがどういうスタンスでいくのか、その中におけるそれぞれが政党に対してどういう影響力をもつのか、それとも幅広く運動が地域につくれるのか、というのが次回の参議院選挙に問われている課題ではないか、と思います。私たちも、地域に根をおろして、きちっと運動をすることが勝利に結びつくのではないかと、思います。

司 会 (横山)

あまり変化のない選挙だったと言えると思いますが、変化のない理由は为什么呢。

攻めを守りを考える (上林)

特に第二ラウンドの市議選ではトータルにみると変化がほとんどなかったように思います。第一ラウンドは結果がはっきりしていますが、県会と市会ではかなり違いがあります。

社会党の場合、県会の方が攻めの選挙をやった地域が多いのではないかという気がしています。定数が少ないですから、積極的に擁立しようとした所はいい結果が出ています。定数がやや多い所＝横浜市区・川崎市会のような所では、複数候補にとどまっている。そういう所ではと

りこぼしが起きている。二人のうち、一人落とすと5割減ということになりますので、とりこぼしの大きさが大きいということになります。

社会党が攻めないで保守が上昇気流になると、社会党の票が食いあらされてしまう傾向があったのではないかと思います。そういう所でまさかと思われたほど現職の落選があったのではないかと思います。

労働意識の多様化が (M氏)

いろいろ要素はあると思うんですが、第一ラウンドは非常にきびしい結果になった。我々労働団体としては、連合ができ、労働新時代になって、支持政党という意識が希薄になっているのではないかという気がします。そうかといって

神奈川県内 統一自治体選挙結果 党派別議席数の推移

県 会 当選者数の推移

	自民党	社会党	公明党	民社党	共産党	諸派	無所属	定数
1975年4月	41	29	13	8	6	1	11	109
1975年4月	35	25	16	9	6	16	8	115
1983年4月	37	23	13	12	3	10	17	115
1987年4月	31	28	14	13	2	5	22	115
1991年4月	43	29	13	9	1	6	14	115
91-87増減	12	1	-1	-4	-1	1	-8	0

政令市議会 当選者数の推移

	自民党	社会党	公明党	民社党	共産党	諸派	無所属	定数
1975年4月	48	27	29	17	21	0	10	152
1975年4月	43	31	27	22	20	5	12	160
1983年4月	47	30	27	24	15	4	13	160
1987年4月	38	33	30	20	18	12	7	158
1991年4月	47	28	27	16	19	10	11	158
91-87増減	9	-5	-3	-4	1	-2	4	0

市 議 会 当選者数の推移

	自民党	社会党	公明党	民社党	共産党	諸派	無所属	定数
1975年4月	12	45	43	21	27	0	206	148
1975年4月	13	40	46	24	35	9	215	167
1983年4月	21	41	46	26	32	3	213	169
1987年4月	29	41	50	23	32	3	194	178
1991年4月	37	42	50	20	33	8	182	202
91-87増減	8	1	0	-3	1	5	-12	24

支持政党を持つ組合員として、我々としても集票活動を以前のような高いものにしたい、という気持ちはあるのですが、組合員というものをつかみきれていない。

また、労働者の意識が多様化してきており、なかなか一本にまとまるまでにいたっていない。各地域ごとに今回の選挙区ごとに連合の組合の成果を数次的につかむことはできるのでしょうか。

司会 (横山)

連合という形では掴めないのではないのですか。やはり、主要な単産単位で見えていかないと

M氏

データをもう少し細かく見れば、何という地区にはどういう単産があって、という分析ができると思うのですが。

支持の強さと弱さの違いが (上林)

個別の地域ごとに、分析をやってみなければならぬと思うのですが……。

私が投票の状況なり戦況なりを聞きながら感じているのは、投票率の低さをどうするかと

というのが一番大きいと思います。労働組合員も半分は投票に行かなかったわけですから、県会もそうですし、市会も同じです。一番高い南足柄で83%、三浦で71%というのがありますが、小さな自治体で人口5万足らずのところでは、大きくなればなるほど、政治に関する関心はぐくくと薄くなる。

それでは、これは誰の責任なんだという話になります。一つは労働組合の責任もあります。組合員ですら投票に行っていないわけですから。それから政党の支持の度合いの問題があります。固い支持、ゆるやかな支持、という分けかたをしますと、一番ゆるやかな支持者が多いのは社会党だと思います。固い支持が多いのは共産党なり公明党、これは一般に言われることです。民社党もゆるやかな支持である。とすると、労働組合が支持・協力関係をもってきた社会・民社両政党はゆるやかな支持層に支えられてきたのだと言えるのではないかと。

そこで、政治に関する関心が薄くなってくると、ゆるやかな支持をしていた人たちは投票に行かなくなる。比較的固い支持層は投票に行く。となると、もう一度政治的な支持関係を地域か

統一自治体選挙の投票率の推移

(1971年以降)

	選挙年月日	都道府県		政令指定都市		その他の市		町村	
		知事	議員	市長	議員	市長	議員	町村長	議員
		投票率	投票率	投票率	投票率	投票率	投票率	投票率	投票率
神奈川 投票率	1971年4月	65.85%	65.79%	63.48%	63.49%	66.89%	69.86%	88.29%	87.95%
	1975年4月	67.67%	67.67%	65.37%	67.80%	76.21%	73.26%	84.89%	85.54%
	1979年4月	53.25%	54.77%	59.84%	53.49%	75.80%	72.84%	75.80%	83.23%
	1983年4月	58.47%	58.48%	60.89%	56.74%	68.08%	69.56%	68.08%	86.14%
	1987年4月	57.30%	57.30%	60.63%	56.72%	66.83%	64.35%	66.83%	74.97%
	1991年4月	45.17%	47.15%	0.00%	46.88%	62.57%	57.41%	62.57%	73.90%

らつくり出さないと、この退潮現象は続くのではないか、というきつい感想を持っているのですが。

真の政治改革を推進させる必要がある

(T氏)

いま神奈川の社会党は健闘した、というお話がありました、それでも現職が落ちたり、負けるはずのない所で負けたり、出さなければならない所で立候補者を出せなかったりしています。社会党は県内の参院選で100万票をとった実績や、今後の衆議院選を考えたら、ただ県議選の当選者だけで勝負を考えているのと全く違うのではないかと、もう少し厳しく論議しなければならないのではないかと、という考えが労働組合の中にはあります。

同時にそれは、土井ブームを含めて、あちこちで積み上げてきた成果が前回の参議院選、衆議院選であり、その努力や積み上げたものを生かすことができなかつたまま、今回の選挙を迎えたという問題だろうと思います。

それから、今のネックになっている「政治を根底から変える」という点から見てどうすればいいのかというと、県議が5人増え市議が10人増えようと、自民党政治には変わらない。5年10年はそのままで。それではその間、土井ブームをはじめとした社会党に期待する国民世論に答えられない。となると地方議会での限界と、政治に対するインパクトに関しての限界と、国政との関係をこれを機会に「どうするんだ」とつつこんでいかないと、地方議会で増えた増えないということだけでは、労働組合の期待に応えるとはまではないのではないかと考えます。

それから、労働組合の中ではやはり社会党に

対する期待は大きい訳で、政策的な課題が多すぎる。それに対する回答がなかなかないことが不満なのです。

ですから神奈川だけは良かったという話にしてしまいますと、基本的なこれからの政治をどうするかという大きな問題、地域社会をどうするかというような論議をする場が棚上げになってしまうという心配があります。

今の状況では社会党を中心にしながら、幅広い連合体をつくって行ってほしい、ということになると、やはり悪い所があったということを知りやすく、話をしてほしいと思います。

今回は都知事選挙と湾岸戦争がありましたので、影響があったという話がありますが、それらがあってもなくても、結果はそんなに違わなかったのではないかと。社会党が大勝できたかという、消費税などの対応を含めた期待に対する答えが余りにわかりにくいまま過ぎてしまった。結論は何なんだ、私の1票はどこにいったのか、という投票者がいたのではないかと思います。

このような場所を主催してもらるのはセンターの役目であるのではないかと思います。

無関心層の増加が低投票率に (S氏)

感想だけ少し述べさせていただきます。私の若い頃は、地方選挙では投票率70%台が当然だった。一時期は75%までいくかと騒いだ時期もあったのですが、全く夢になってしまい、今は60%がいいところ。今回は選挙当日の天候が悪かったという訳でもないのですが低い。ということは、有権者が政治に対する関心をなくしていることだと思えます。これは誰の責任というよりも、政治に係わる人たち全員の責任である。

10%、20%投票率が低いのが当たり前になってきたというのは、政治に対する不信か無関心のどちらかだと思う。一時期は政治に対する不信が確かに大きかったんですが、最近「どうでもいいや」という無関心層が増えてきているのが数字に現れてきていると思う。社会党をどうするか、ということよりも、関心をどうやって高めていくかを議論する方が先だと思う。

組織組員の多くが「あの候補者を知らない」と言う。それを私は否定できないと思う。組織のメンバーを説得して票を固める、というのは

組合の大きな使命だと思う。ただ、それだけで終わったのでは情け無い。それプラスもう一つ大きな使命があると思う。

それは組員だけでなく、ひろく家族も含めて、政治に関する関心を高めるということが大事だろうと思います。昨今の出生率の低下を心配する声が出ていますが、我々も政党政派を超えて、関心を高めていく努力をしないと、出生率の低下と同様に非常に低いところまでいってしまうのではないかと思います。

フリーディスカッション

その2. 社会党改革をめぐって

司会 (横山)

色々な問題が出ましたが、社会党改革に焦点をしぼって、社会党にどのような問題があるのか、率直にお出しただけないでしょうか。

地域政治と国政政党の違い (M氏)

7月初めの社会党の公聴会で「社会党と神奈川ネットワーク運動がもっと提携していけるといいと思うし、そのような社会党になってほしい」という発言をされていました。ネットの運動が地方ローカルな選挙をやってきて、国政レベルにまでチャレンジという所までは届かないのではないかと僕は感じています。国政は国政政党、ローカルは地域政党、ローカル政党として地域では活動し、国政は社会党に協力しましょう、という所まで割り切った選挙協力という所まで含んでのお話だったのででしょうか。

社会党もかなり変わっていかねばならな

いと思います。ほくちも労働団体として、たとえば社会党が衆議院で2名の候補者を出すという場合、社会党公認は問題ないのですが、公認以外はどうか改めて考えなければならぬ。その辺が最大の話題というか関心事になっています。

労働団体としては、社会党にもっと大きな、政権政党になってほしい、という思いを持っていろいろと意見を言っています。それと同時に市民団体グループを代表する神奈川ネットに関する関係者がその辺の話をしてもらおうと良いのではないかと思います。

司会 (横山)

市民側、市民側と言いますが、都知事選挙など見ていてもおわかりだと思いますが、実際の選挙というレベルで力を持つ市民団体とは、組織票を持っているところだけで、それ以外はほとんど力を持ってない。ですから、当然ネットということになると思うのですが、ネット自身は

前回の衆議院選では横山純子さんを出して、社会党との間での交渉の結果「支持」という形になったという経緯があります。その辺から伺いましょうか。どうでしょうか。

社会党の基盤拡大に期待が

(ネットワーク運動事務局)

私たちが87年と91年の選挙状況の違いを考えますと、87年は自民党の売上げ税というペナルティがあつて、土井さん人気はまだ得点になっていなかった。でも、その特典は一般の有権者が期待して、自民党に代わる政権党としての社会党への期待が込められていた。ところが、社会党が築きあげてきた政治の地盤を変えない限り、自民党にとってかわる党とはなれないのではないか。その政治の基盤の中に、土井さんに象徴された女性や生活者、市民運動までもとりこめるようなものが社会党に期待されていたのではないかと思います。

しかし、実際この4年間の動きは、土井さんへの同情もあつたし、人気はあつたのですが、その先はどうしても期待ができない。果たして社会党は本気になって政権をとろうとしているのか、社会党が単独で政権をとれるのだろうかということと、環境問題や高齢化社会についての問題などを目の前にして、政治的な枠組みが今のままでよいのだろうか。民社党や公明党などはどう組み込まれるのか。このような状況を社会党はどうとらえて、社会党の基盤をどう考えているのかについて、私たちは非常に期待をもって見ています。と同時に、社会党の基盤となってきたそのポジションを見直さないと、労組や選挙の技術だけでは勝てないだろうと思います。

私たちが昨年衆議院選で横山純子を出した

時に、土井さんから出されてきた「社会党の基盤を広げる」ということには非常に意義があると思うし、2名出すことになれば、そういう所で社会党と手を組めるし、係わり方の追求をしていきたいと思います。

環境問題など市民と共通の課題で闘いを 司会(横山)

今、ネットの側から、少し抽象的ではありませんが、社会党の評価も含めて、社会党との関わり方についてのお話がありました。確かに、環境の問題や人権・平和の問題にしても、従来のような、与党と野党が対立をしてきたという構図ではなくて、もう一つ別の要素がでてきます。それは文化と言ってもよいかもしれないし、人間というような抽象的な言い方しかできませんが、これまでの高度成長の裏側から出てきたような問題を、政治の中心に据える、というようなスタンスを保守は保守なりにとらなければならないようになってきています。革新はいつそうそういうスタンスをとるべきではないか、というお話だったと思います。

そこまではたして社会党が踏み切れるか、という問題が提起されているのですが、実はこの問題は60年代の後半に環境問題が起こった時に起きていたのです。つまり環境問題と地域開発、という対立の問題として出たわけです。その時に、社会党に環境問題を取り上げるように詰め寄ったところ、結果として「環境問題は票にならない」という答えが返ってきた。環境問題はオイルショック以降下火になったのですが、再び地球規模で問題は戻ってきた。それでいまのような発言になったと思います。

そういう視点から、社会党の改造・改革というものを見てきますと、一部の動きは自民党に

近づき形で政策を現実的なものにする、というように見えます。それは従来の、保革が対立しているという政治的な構図とあまり変わっていないように思えます。社会党にこの問題はどうかするんだと、市民運動の側が個別に問題を出してくると、社会党がそれに対応しようとはする。たとえば市民局のようなものをつくる。しかし、それは言葉の上だけであって、エネルギーや核などになると、市民運動と社会党は真向から対立することになりますし、労働組合も社会党と対立することになる。そういうかなり切羽詰まった問題に我々は直面しています。

ある意味では、労働組合も社会党も市民運動も八方ふさがりになりかねない、という状況にあると思います。それを打開するためにはどうすればいいのか、というのが今日出されたテーマだと思います。それを現実の運動の中で、どのような手立てで、どのような条件をつくっていけば、その先がみえてくるのか、というのを私たちは考えなければならぬと思います。

たとえば、連合山岸さんの発言などを新聞などで見ていますと、それなりに一つの選択の方向が見えない訳ではありません。しかし、それが実際に地域レベルになった場合、連合の実体はどういうものなのかがよくわからない。

連合としては社会党にどうなってほしいのか、連合のナショナルレベルで言われていることと、地域レベルで言われていることと、同じではないのでしょうか？

社公民連・連携が連合の主軸

連合神奈川（T氏）

連合の基本は、社・公・民・社民連4党と提携して、国政における連合政権を実現したい、ということです。ですから4党と連携したい。

けれども、首長についてはそうとは言っていない。今回の場合でいえば、自公民による知事擁立運動を阻止するということがあります。ですから社会党にもご苦勞をかけたし、県評センターも苦勞しましたが、結論として「社公民」ということになって、共産党とは一緒に活動できないことになりました。社会党がこのままであれば、社公民の推薦する候補者を推薦する、ということになるでしょう。

ですから、もし出来れば社会党に、もう一つつこんだ政治改革をやってほしい。そうしないと市民運動の人など、色々な人を含んだ政治改革は出来ないではないか、となると、これまで通り、社公民+社民連と提携せざるをえない、ということになります。

司会（横山）

その社公民と社民連という政党レベルの視点で考える、ということについても、いくつか問題はあると思うのですが、それはさておいて…。現職は引退されましたが、今回党改革をどうみておられるのですか。

現職議員の悩みを党改革に反映を（S氏）

私は先日の社会党の公聴会にも出たのですが、非常に不満なのは、実際に苦勞をしている社会党の苦勞が一つも出ていない。私は実際に市会の人、県会の人、実際に苦勞してきたところを全部出してもらって、その上で方向性を決める。その上で、社公民とするのが筋道ではないかと思えます。我々は道路の問題にしても、ゴミの問題にしても色々な苦勞をしています、場所によって話ができる限界がある、そのところは同志としての信頼に基づいてものを言うしかないのです。

長洲さんを頂点においている県会議員が政策

をつくれるかという、すべてをただちにはできない。その出来ない事情をあからさまに言えるグループと言えないグループがある。その辺を判断しながらやっていくわけです。ですから、本当の私たちの気持ちを聞いていただいて、そこから盛り上がってくる、そういういいチャンスだと思うのですが、今回の選挙のような中からは出てこない。

社会党に理念が欠落（SA氏）

私なりに今度の地方選挙を見て言えることは、私の自治会は有権者が5千人ぐらいいるのですが、社会党の問題として政治理念の提起のなさがあるのではないかと、ということです。これは常に言われている問題だと思いますが、飛鳥田さんや美濃部さんが活躍していた時期と、今の議員の対応の仕方はどうも違うのではないかと思います。

70年代には理念的なものが社会党にもあったと思います。革新市政の与党としての性格を強く出すというのは、それはそれで良いと思いますが、社会資本が不足している今、大規模な開発をする場合、市民にとってどういう開発がいいのかを考えることが必要なのです。その辺の理念が全くなくて、ただ与党であるからドーム型スタジアムを推進する、という。一方で、競輪場の併用になるのではないかと、という噂が飛び交っています。5千人有権者がいても、「社会党に入れてくれ」と自信を持って言えない状況です。

やはり欠けているのは環境問題なり地域開発の問題ですので、それを追求していくと、かなり支持者が出るのではないかと思います。

さらに、組織の強化—労働組合がどうあればいいのか—別の言い方をすれば、締めつけをす

れば社会党に支持がくるかという、私は非常に疑問を感じる。その辺は明確な理念を出さないと駄目じゃないかと思います。

労働組合を強化するならば、明確な政治理念がないと訴え得ない面があるのではないかと思います。特に、革新首長のもとでの議員の方はよく考えていただかないと、与党が太陽に寄っているからいいんだ、という市民は離れていってしまう。その辺を感じました。

M 氏

私は、選挙はやはり市民の間に信用がなければならぬ。組合の組織がどうかというよりも、組合が選挙をやってくれる時に組織の組合員の所にだけ行くのではなく、お祖父さんや子どももいるわけですから、それを含めた所に行くことができる。組織の締めつけによるのではなく、組合が力を出すのはそこだと思います。

組織がどうかというよりも、社会党として組合を頼りにしていく時のスタンスが、今は揺れている。まず、基盤をしっかりとすることが先決だと思います。

基本論議と人事が混在した改革論議は問題（F氏）

私が最初にいいかかったことは、選挙に負けたから、勝ったから、どう改革するかという議論をしている訳ではない。新聞の見出しはそうでない。選挙に負けたから、という所からスタートしてるんですよ。そんなことはない、負けるべくして負けたんだから。選挙の結果は厳粛に受け止めて、我々は政権をとろうとしている訳だから、今のようなことをしていても政権はとれませんよと腹をくくって考えるべきだと思う。

こういう状況下では首をすげかえるような議論が先行する。人事の泥臭いものだけが国民に知らされる。そういう議論はマスコミもとりあげますから、イメージとして非常に悪い。今回は自民党に代わる勢力を結集する非常にいい機会だと思います。その場合に色々な議論ができる土壌をつくっていかねばならない。市民運動も含めて、多くの勢力を結集しなければ、政権はとれない。共産党のように、ずっと批判政党でいいというならいざしらず、野党第一党として責任を果たさなければならぬ。

しかし、今の社公民もまとめきれない社会党が、市民運動をまきこめるはずはない。それをどうするかというのが今の社会党の問題であり、その中から政策の問題や、運動の問題や、市民との係わり方の問題が出てくる。今回の統一地方選挙では、地域政策をきちんともって活動している所では勝っている。そこをきちんと評価していかないといけない。

原則でやりすぎると問題で、今は7月の大会で社会党は憲法問題まで決めてしまうような印象になってるでしょう。これは大変な間違いで、あちこち議論をしてから決めていくべきことで、党は7月の大会ではここまで決定する、10月にはこういうことを決める、というような示唆をだすべきだ。それを一緒になったような議論をしているような印象がある。その辺は間違えないようにしてほしいと思う。

日常の改革論議が必要

司会(横山)

私がこれまで社会党の党改革論が出る過程を見てみますと、選挙に負けた時に必ず出るので。ところが、社会党の低落傾向というのは一本ではなく、階段状に落ちる。前回その平面が

少し上がりましたが、次には階段状にストンと落ちる。あとはずっと平らになる。その時には改革論は出ない。今回もこのような傾向はあると私は見えています。

今度の選挙で一番ショックを受けたのは、都知事選での大原候補です。彼は社会党がこんなだとは思わなかったと言う。ところが社会党をよく知っている人たちは、ああなるのは当然だと言う。この違い。私にしてもここまでひどいとは思わなかった。

ですから、このような食い違いは段々大きくなっています。本来は社会党でやらなければいけないような議論を、我々がこういう所でやらざるを得ない。それは、社会党、という政治勢力が大事だからです。社会党の改革は回りが熱心であって、中はあまり熱心ではない、そういう感じがします。これからどうなるかわかりませんが、ぼくらはぼくらなりにやらざるを得ないと思います。

現実の動きと政権構想に大きなギャップが

(S氏)

6月末に社会党県本部の大会があり、小選挙区制にきちんと党として対応していかないと大変なことになる、というについて発言させてもらいました。たまたま自治労政治連盟の学習会が東京であり、朝日新聞の石川真澄さんが、自民党の主流派はこう思っているよ、将来的な政治はこうなるよ、というようなレクチャーをしてくれました。その中で感じたことは、改めて色々なことが仕組まれているということ。そして、そういう中で、政権党が出現することと、社会党の中央が選択肢を出しながら、政権構想としてやっていることとはどうしてもギャップを感じざるを得ないという危機意識を持ってい

ます。

地方議会の数でいうと、共産党が一番多いという逆ピラミッドですが、選挙制度の改革などでそうでもなくなりつつある。政権構想、といっても全く掛け離れた状況になりそうなのに、なぜ、今そのような議論をするのか。政権構想そのものの議論をすることは正しいと思いますが、社会党が戦後ずっとやってきた運動があると思う。自分たちが思っている以上の市民から支持されてきたのはなぜか。一部の労働組合だけの力ではないと思う。それを基盤を広げる努力をしてこなかったために、今ここに来て見ると、皆支持者はいなくなってしまった。残っているのは社会党・総評ブロックだけというところ

ろで、政権構想を語っても絵に書いた餅だと思

う。過去のことも反省しつつ、そうならないためにはどうすればいいのか、そういうことの積み重ねの中で政権構想が出てくると思う。この辺が抽象的ですが、私の感想です。

また、選挙のことについて言えば、全国で初めて即日開票をやった横浜市会のことが一番生々しいですが、見るも無残な惨敗だった。それはなぜか、ということは仲間うちでは議論しますが、〇〇党の××さんが勝った、というだけでは選挙技術だけの話になってしまう。そうでない、具体的な議論を今後していかなければならないのではないかと思います。

フリーディスカッション

その3. 政党・労働組合・市民運動との関係

請負型政治と参加型の政治

司 会 (横 山)

はからずも社会党が直面している問題と、労働組合が直面している問題も大きな壁にぶつかっていることが明らかになっています。

今日私は男デモクラシー、女デモクラシーという言葉をあえて使ったのは、今、女の側から提起している問題というのは、価値観をひっくりかえさないとどうにもならないという所まで来ているということもあります。

今出てきた問題として考えますと、男型の議員さんというのは請負型だと思います。それに対して女型の議員さんというのは参加型の議員と性格づけられるとすると、もっと問題ははっきり

してくる。つまり、社会党の議員であろうと、自民党の議員であろうと、基本的には請負型だと思います。今、要求されているのは、個別の問題の解決や将来のまちづくりにあたって、いかに大勢の人々を参加させるかに、議員がどういう役割を演じることができるかであり、この違いだと思います。これは今後避けて通れない問題になると思います。

ナショナルとローカルのちがい (O氏)

組織が大きくなり、国政を意識しながら出していく方針と、各議員が市民参加で地域で組み立てていくことが、かなり相反するところがあるのではないのでしょうか。私は、社会党はローカルパーティでなくナショナルパーティにある

程度徹してしまって、社会党のカラーをかなぐり捨てたローカルパーティを沢山作ったらどうだろうか、と発言したことがあります。

私たちはネットワーク運動をつくってローカルパーティとしてやってきています。社会党もそのようなものをつくる、あるいは自分たちもローカルパーティに変身するグループがあってもいいと思うし、そのようなものが横にネットワークしていけば、社会党もかわっていくのではないのでしょうか。

それから、次の国政選挙で社会党は5区を除いて2人出すという方針を伺い、原則として公認というのを聞いて、やっぱり変わっていないな、という印象を持った。私たちとしては、昨年の「300議席を打倒する会」の時の理念を大事にしていきたい、と思っています。

幅広く力を結集して政策の実現を (M氏)

労働組合の政治への取組が議論されていますが、労働組合で活動する者として、また、地域では生活者として生きている者として発言したいと思います。うちの組織の中でも、市会候補は社会党、県会は自民党と、政策で判断するのではなく地域から出ている人を選挙では応援するという仕組みがあり、そこを払拭しきれない状況です。

今回の選挙では争点がないと言われますが、争点はないはずはない。教育の問題や福祉の問題、あるいは環境の問題など、社会党が大胆に今の自民党中心の政治の流れを変えるような問題提起の仕方があるのではないかと思います。原発の問題にしても、反対するだけでなく、地域で小さな新しいエネルギーを開発するような大胆な発想をしてもいいのではないかと。

選挙運動をやる段階では、そのような政策提

起をきちっとしてほしい。自分たちの日常生活から感じられるもの、共感を得られるようなものを提起してほしい。そのまどめの作業を色々な人でやるような場を持ってほしい。

もう一つは、有権者の立場から見ると、どんな立派な政策であっても、4年間でどれだけ実現できたかということが次の選挙での大きな評価になってくる。政策を実現させるという点から言うと、地方議会に代表者を送って行政に政策を生かす、という今の仕組みでは矛盾があるというのが生活者のレベルからも見えてきている。どんな立派な政策を掲げても、一人、二人のレベルでは何にもならない。そういう意味では、有権者の政策に対する意識はありながらも、政治の上では全然改善されてこない。

このままでは何もならないということでネットの人たちのように、市民運動レベルから政治に参画する動きが生まれてきている。有権者の立場から見ると、そういう人たちの動きは評価しながらも、政策をまとめて実現するプロセスの中では、大きくまとまった力を発揮してほしいという気持ちがある。やはり、社会党が中心的な役割を果たしてほしい、という期待感は大きいと思います。社会党以外の勢力も結集できるという期待だと思います。その辺が納得できない有権者が相当数いる。

今後、議員が直接市民生活に飛び込んでいけば行くほど、悩みをしょいこむことになると思います。市民が望む政策を実現させようと思っても中々うまくいかない。実現させるためには、何をすればいいのか、どういう力を結集させればいいのかを真剣に議論してほしい。

政策はいくら立派なものをつくっても、実現させていかないと、一過性のものに終わってしまう危険もある。単組の中で政策研究部をつくっているいろいろやりはじめ、一番ポイントになっ

たのは、ひとつでも2つでもいいから研究テーマを実現させるということだった。初めの2、3年はちっとも前進せず、つぶれかかったのですが、ひとつ、2つは実現することが出来て現在まで継続しています。

その意味では、単組レベルの政策でも、地域レベルの政策でもひとつでも2つでも実現させていく活動が今問われている。逆にそういうことを行っていないと、政策づくりへの参加さえ出てこない。その点で社会党には大きな力を結集してほしいと思います。

日常的なはたらきかけが勝因 (W氏)

ネットはいままでの選挙は倍々ゲームをやってきました。当初15人だったのが今回約30人にふえました。

さきほどネットは組織力をバックにしているというご指摘がありましたが、確かに生活クラブ生協という母体があって、その組織に対して働きかけをしてそこが一番の基盤になっていきます。生活クラブ生協は安全な食べ物を食べたいということで作りだしてきたものですが、それだけでなく、様々な問題に対して政治を使っていこう、だから代理人を出そう、という日常的な働きかけをしているわけです。

それが強いところでは反応も良かったし、雨が降っても投票に行ったと思うんです。でも、弱かった所には「あなたの考えは良いと思う」とは言うものの、雨が降ってしまうと投票には行かないということがある。

生活クラブ生協にも班形式の共同購入を行っているところと、デポーといって店舗形式の所がありますが、やはり後者は働きかけが弱い。これは労働組合と社会党の関係と同じではないかなと今思っていました。

今回の選挙ではネットは現職が強かったのですが、やはり日常的に議会報告会やボランティアの人たちが係わる会を開いている。そこで身近な問題を投げ掛ける、あるいは問題を戴いて、一緒に変えていきましょうよと議員と市民と一緒にやってきています。この辺が現職の強さだったのではないかと思います。

司会 (横山)

組織の力ではないかと言ったのは、議会報告会をやって働き掛けたという対象も、日常的な運動をやって働き掛けたという対象も、全部組織の人だった、そういう意味で言っているんです。つまり、ネットの限界というのは、その組織から外に出ていないのではないかということでは言いたかったんです。

W氏

全くないとは思いますが、これからの課題ではあると思います。

ただ、世の中非常に政治離れが進んでいると言われる中で、一般の人に「政治のことを話すから来てよ」と言っても中々むずかしい。今回の選挙でかなりネットは認知されたとは思いますが、それでも知る人は少ない。ネットというのれんが使えるか、というと思えない。そういう状況の中でここまでやれたのは、組織の中にも政治アレルギーのある人はいますが、やはり組織のおかげだろうと思います。

草の根がこれだけ勝った、新しい動きが出てきた、という期待感が生まれているのではないかと、と楽観的な見方かもしれないけれどあると思う。それで次に広げるつながりを生み出せるのではないかと考えています。

さきほど政策の問題が出ましたが、やっと私たちも地方政治のレベルで政治を使うことを覚えて、こう変えれば変えられる、ということを感じつつあります。たとえば電気事業法はこう

だから、コジエネは地域ではうまく使えないということもあります。私はゴミの問題を長くやってきましたので、今回の廃棄物処理法の改正が骨抜きになって、あれは自民党と企業が手を組んでいるからだということが見えていて、それをひっくりかえさなければ何も変わらないということは分かっている。だからこそ社会党にもっと期待したいし、ぜひ政権党になってほしいという期待はあるのです。

でも政策の面、という自衛隊のことについて社会党が論議しているということぐらいしか見えてこなくて、エネルギー政策についてどう考えているかなどということは全然見えてこない。だから、これについてはこのように考えているということを出してもらえれば、ローカルパーティとしてのネットと社会党の連携がもっと進むのではないかと、思います。

地域で労組と市民運動との連携が必要
司 会 (横山)

先程Oさんが、社会党はナショナル政党に徹して、地域はネットワークをつくって、それと結ばばいい、とおっしゃいました。大体おなじような考えで、20年ぐらい前に、社会党には県本部があって総支部があるがそれはトップの中央政党から独立した方がいいと言ってきた。独立すれば、地域のことはもっと自由にやれるはずだと考えていたのです。

しかし、革新政党は政権が目標にあって、その

ための地域組織ですから、それは駄目だということなんです。ところが、実体は違うんですね。むしろ政権をとるために独立した方がいいというのが僕らの考え方なんです。

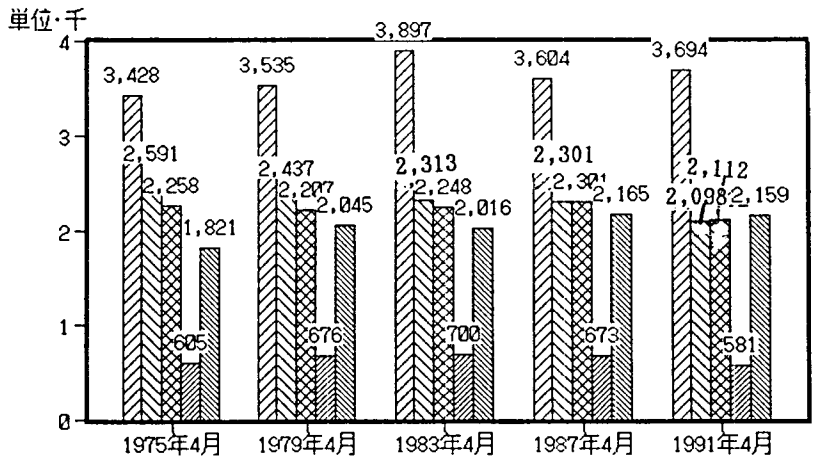
ここで議論しているのは、社会党が地域で労働組合と結び、市民運動と結ぶ、という基本的な考え方があり、地域政治を活性化するためにそういう考え方が出てきている。活性化すれば必ず市民の考えは地域に反映されるはずだ、と考えます。そのためには、社会党はどうすればいいのかということになると、地域で素直に個々の問題について議論ができるようになるのか、ならないのか、という簡単な話なんです。ところがこの簡単なことができない。

どうも地域のレベルでは、労働組合と市民運動と手を結ぶということは全然考えていないんじゃないか。だから、その糸口をどうつけたらいいのか、ということがさしあたっての課題になると、思います。

日常的な党と労組との連携不足が (M氏)

一番極端に言われるのは、選挙の時に社会党

統一選の結果 党派別全国議員総数



自民党 社会党 公明党 民社党 共産党

を支持するんだけど、それだけで終わりに
てしまう。4年間全く連携がとれない。その間
政策的なものが何も出てこなければ問題はな
いわけだけれど、労働組合が職場なり地域で実感
している経験から言うと「こういう方針で社会
党に対応してほしい」と申し入れても、時には
全く違う方針で議会の中で対応されてしまうこ
とがある。そうなると、日常的に社会党との連
携というのは何なのか、という疑問が出てきて
しまう。組合の大会で挨拶することだけなのか、
ということがになる。

たとえばエネルギー問題などについては、我々
は政策を持っているのですが、それを具体化す
るために、地域レベルではこうしていきたい、
県レベルではこのようにやりたい、というよ
うな政策論議をもっと積極的にやりたいと考
えているのです。けれど、組織的にもむずかしい問
題もあって、申し入れてしまってからこちらが
組織的にもたないと初めて気付くということも
あります。労働組合でさえこういうレベルで
すから、そこを脱皮するような対応を出してい
ただかないと、将来的に難しいだろうな、とい
う気がします。

司 会 (横山)

信頼関係は日常的につくられていく訳です
から、ある時突然に出来るわけではない。そんな
ことは皆わかっているはずなのに、中々つくる
のは難しい。

今、社会党の支持母体として政策会議、とい
うのをつくらうとしています、その中で、一
つの政策をめぐる労働組合が真向から対立す
る、というケースがでてくる。その時に、党と
して基本的な理念をどうつくりあげるかとい
うことは、具体的な事例の中でもまれないとな
かなか出てこないと思います。冒頭の議論にもあ
ったように、社会党が従来の労働組合との協力関

係というだけでなく、幅広く市民社会の中に溶
け込もうとすればするほど、基本理念をもつて
いないと対応しきれないということが出てくる。

とすると、今我々がすべきことは何か、と
いうと、今、労働組合の間でさえそれがやられ
ていないとなると、いきなり市民レベルにまで
もっていても対応できなくなってくる。そう
いう意味では、労働組合間の協力関係は最低限
つくるということは必要なのではないかと
思います。

上 林

全国的なレベルと神奈川のレベルの話では、
少しずれ違いがありますが、資料の表をみて
いただくとわかりますが、社会党は無所属を除
いて第4党です。

第一党は自民党、第二党は共産党、第三党が
公明党、そして社会党は第四党です。全国レ
ベルですが、県会、政令市では第2党ですが、
町村と特別区できわめて弱いのです。そうい
う状況ですから、そこからもう一度原点に立つ
必要があると思います。頭の大きな逆ピラミ
ッドになっていて、肝心の地域に議員がいな
いわけです。

司 会 (横山)

この研究会そのものを直して、もう少し構
造的にできればいいと思っております。話を結
論に持っていくのはそれほどむずかしくない
のだけれど、どうしたらいいかということにな
るとそう簡単にはでない。ですからどうし
たらいいか、ということを考えられるよ
うなデータを作りたいと思います。

[この記録は、1991年6月11日に行
われた「地域政治構造研究会」の記録を編
集しなおしたものです。文責は編集者に
あります。]

	選挙年月	対象		自民党		社会党		公明党		民社 議席数
		自治体数	総定数	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比	
道府 県会 議員	1975年4月	44	2,609	1,391	53.3%	422	16.2%	167	6.4%	103
	1979年4月	44	2,645	1,406	53.2%	379	14.3%	166	6.3%	106
	1983年4月	44	2,660	1,486	55.9%	372	14.0%	182	6.8%	100
	1987年4月	44	2,670	1,382	51.8%	443	16.6%	186	7.0%	104
	1991年4月	44	2,693	1,543	57.3%	345	12.8%	159	5.9%	82
	91-87	0	23	161	5.5%	-98	-3.8%	-27	-1.1%	-22
政令 市会 議員	1975年4月	8	586	196	33.4%	98	16.7%	111	18.9%	55
	1979年4月	8	607	193	31.8%	101	16.6%	108	17.8%	61
	1983年4月	10	665	232	34.9%	112	16.8%	122	18.3%	69
	1987年4月	10	665	204	30.7%	126	18.9%	128	19.2%	71
	1991年4月	11	733	244	33.3%	128	17.5%	124	16.9%	62
	91-87増減	1	68	40	2.6%	2	-1.5%	-4	-2.3%	-9
市会 議員	1975年4月	381	12,280	1,160	9.4%	1,356	11.0%	1122	9.1%	354
	1979年4月	396	12,344	1,229	10.0%	1,302	10.5%	1119	9.1%	411
	1983年4月	386	12,075	1,439	11.9%	1,219	10.1%	1149	9.5%	429
	1987年4月	387	11,613	1,380	11.9%	1,163	10.0%	1200	10.3%	404
	1991年4月	385	11,396	1,281	11.2%	1,116	9.8%	1135	10.0%	351
	91-87増減	-2	-217	-99	-0.6%	-47	-0.2%	-65	-0.4%	-53
特別 区会 議員	1975年4月	23	1,091	525	48.1%	122	11.2%	176	16.1%	40
	1979年4月	23	1,087	498	45.8%	107	9.8%	179	16.5%	51
	1983年4月	23	1,073	477	44.5%	106	9.9%	186	17.3%	54
	1987年4月	23	1,051	440	41.9%	115	10.9%	207	19.7%	49
	1991年4月	23	1,031	461	44.7%	98	9.5%	202	19.6%	38
	91-87増減	0	-20	21	2.8%	-17	-1.4%	-5	-0.1%	-11
町村 会 議員	1975年4月	1311	23,810	156	0.7%	593	2.5%	682	2.9%	53
	1979年4月	1363	23,267	209	0.9%	548	2.4%	635	2.7%	47
	1983年4月	1290	22,304	263	1.2%	504	2.3%	609	2.7%	48
	1987年4月	1280	21,096	198	0.9%	454	2.2%	580	2.7%	45
	1991年4月	1272	20,579	165	0.8%	411	2.0%	492	2.4%	48
	91-87増減	-8	-517	-33	-0	-43	-0.2%	-88	-0.4%	3
総 議 員 数	1975年4月	1767	40,376	3,428	8.5%	2,591	6.4%	2,258	5.6%	605
	1979年4月	1834	39,950	3,535	8.8%	2,437	6.1%	2,207	5.5%	676
	1983年4月	1753	38,777	3,897	10.0%	2,313	6.0%	2,248	5.8%	700
	1987年4月	1744	37,095	3,604	9.7%	2,301	6.2%	2,301	6.2%	673
	1991年4月	1735	36,432	3,694	10.1%	2,098	5.8%	2,112	5.8%	581
	91-87増減	-8	-663	90	0.4%	-203	-0.4%	-189	-0.4%	-92

町村議員 政党別当選者数

各年とも統一自治体選挙終了時現在の党派による

党 構成比	共産党		諸派(含む新自		無所属		うち女性		うち無投票当選	
	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比
3.9%	95	3.6%	40	1.5%	391	15.0%	29	1.1%	103	3.9%
4.0%	122	4.6%	76	2.9%	390	14.7%	28	1.1%	485	18.3%
3.8%	85	3.2%	64	2.4%	371	13.9%	30	1.1%	80	3.0%
3.9%	118	4.4%	40	1.5%	397	14.9%	52	1.9%	183	6.9%
3.0%	98	3.6%	37	1.4%	429	15.9%	64	2.4%	583	21.6%
-0.9%	-20	-0.8%	-3	-0.1%	32	1.1%	12	0.4%	400	14.8%
9.4%	81	13.8%	0	0.0%	45	7.7%	27	4.6%	0	0.0%
10.0%	87	14.3%	17	2.8%	40	6.6%	27	4.4%	5	0.8%
10.4%	74	11.1%	20	3.0%	36	5.4%	35	5.3%	0	0.0%
10.7%	80	12.0%	19	2.9%	37	5.6%	39	5.9%	33	5.0%
8.5%	86	11.7%	33	4.5%	56	7.6%	61	8.3%	11	1.5%
-2.2%	6	-0.3%	14	1.6%	19	2.1%	22	2.5%	-22	-3.5%
2.9%	797	6.5%	8	0.1%	7,483	60.9%	279	2.3%	37	0.3%
3.3%	931	7.5%	70	0.6%	7,282	59.0%	285	2.3%	178	1.4%
3.6%	926	7.7%	41	0.3%	6,872	56.9%	370	3.1%	86	0.7%
3.5%	972	8.4%	17	0.1%	6,477	55.8%	504	4.3%	159	1.4%
3.1%	970	8.5%	30	0.3%	6,513	57.2%	657	5.8%	239	2.1%
-0.4%	-2	0.1%	13	0.1%	36	1.4%	153	1.4%	80	0.7%
3.7%	159	14.6%	0	0.0%	66	6.0%	72	6.6%	0	0.0%
4.7%	156	14.4%	46	4.2%	50	4.6%	73	6.7%	0	0.0%
5.0%	159	14.8%	41	3.8%	50	4.7%	80	7.5%	0	0.0%
4.7%	167	15.9%	9	0.9%	64	6.1%	94	8.9%	0	0.0%
3.7%	157	15.2%	7	0.7%	68	6.6%	121	11.7%	0	0.0%
-1.0%	-10	-0.7%	-2	-0.2%	4	0.5%	27	2.8%	0	0.0%
0.2%	689	2.9%	3	0.0%	21,634	90.9%	110	0.5%	805	3.4%
0.2%	749	3.2%	8	0.0%	21,071	90.6%	120	0.5%	2,040	8.8%
0.2%	772	3.5%	5	0.0%	20,102	90.1%	161	0.7%	2,192	9.8%
0.2%	828	3.9%	0	0.0%	18,990	90.0%	267	1.3%	2,649	12.6%
0.2%	848	4.1%	3	0.0%	18,606	90.4%	431	2.1%	3,785	18.4%
0.0%	20	0.2%	3	0.0%	-384	0.4%	164	0.8%	1,136	5.8%
1.5%	1,821	4.5%	51	0.1%	29,619	73.4%	517	1.3%	945	2.3%
1.7%	2,045	5.1%	217	0.5%	28,833	72.2%	533	1.3%	2,708	6.8%
1.8%	2,016	5.2%	171	0.4%	27,431	70.7%	676	1.7%	2,358	6.1%
1.8%	2,165	5.8%	85	0.2%	25,965	70.0%	956	2.6%	3,024	8.2%
1.6%	2,159	5.9%	110	0.3%	25,672	70.5%	1,334	3.7%	4,618	12.7%
-0.2%	-6	0.1%	25	0.1%	-293	0.5%	378	1.1%	1,594	4.5%

[統一自治体選挙の結果]

神奈川県議会・政令市議会・市議会・町村議会

	選挙年月	対象自: 総		自民党		社会党		公明党		民社党		共産党	
		地体数	定数	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比	議席数	構成比
県議会議員	1975年4月	1	109	41	37.6%	29	26.6%	13	11.9%	8	7.3%	6	5.5%
	1979年4月	1	115	35	30.4%	25	21.7%	16	13.9%	9	7.8%	6	5.2%
	1983年4月	1	115	37	32.2%	23	20.0%	13	11.3%	12	10.4%	3	2.6%
	1987年4月	1	115	31	27.0%	28	24.3%	14	12.2%	13	11.3%	2	1.7%
	1991年4月	1	115	43	37.4%	29	25.2%	13	11.3%	9	7.8%	1	0.9%
	91-87増減	0	0	12	10.4%	1	0.9%	-1	-0.9%	-4	-3.5%	-1	-0.9%
政令市議会	1975年4月	2	152	48	31.6%	27	17.8%	29	19.1%	17	11.2%	21	13.8%
	1979年4月	2	160	43	26.9%	31	19.4%	27	16.9%	22	13.8%	20	12.5%
	1983年4月	2	160	47	29.4%	30	18.8%	27	16.9%	24	15.0%	15	9.4%
	1987年4月	2	158	38	24.1%	33	20.9%	30	19.0%	20	12.7%	18	11.4%
	1991年4月	2	158	47	29.7%	28	17.7%	27	17.1%	16	10.1%	19	12.0%
	91-87増減	0	0	9	5.7%	-5	-3.2%	-3	-1.9%	-4	-2.5%	1	0.6%
市議会議員	1975年4月	10	354	12	3.4%	45	12.7%	43	12.1%	21	5.9%	27	7.6%
	1979年4月	11	382	13	3.4%	40	10.5%	46	12.0%	24	6.3%	35	9.2%
	1983年4月	11	382	21	5.5%	41	10.7%	46	12.0%	26	6.8%	32	8.4%
	1987年4月	11	372	29	7.8%	41	11.0%	50	13.4%	23	6.2%	32	8.6%
	1991年4月	11	372	37	9.9%	42	11.3%	50	13.4%	20	5.4%	33	8.9%
	91-87増減		0	8	2.2%	1	0.3%	0	0.0%	-3	-0.8%	1	0.3%
町村議会議員	1975年4月	6	134	0	0.0%	5	3.7%	4	3.0%	2	1.5%	5	3.7%
	1979年4月	5	106	0	0.0%	2	1.9%	2	1.9%	0	0.0%	6	5.7%
	1983年4月	5	98	0	0.0%	4	4.1%	4	4.1%	0	0.0%	5	5.1%
	1987年4月	5	94	0	0.0%	5	5.3%	4	4.3%	0	0.0%	6	6.4%
	1991年4月	5	92	1	1.1%	4	4.3%	4	4.3%	0	0.0%	5	5.4%
	91-87増減		-2	1	1.1%	-1	-1.0%	0	0.1%	0	0.0%	-1	-0.9%
議員総合計	1975年4月	19	749	101	13.5%	106	14.2%	89	11.9%	48	6.4%	59	7.9%
	1979年4月	19	763	91	11.9%	98	12.8%	91	11.9%	55	7.2%	67	8.8%
	1983年4月	19	755	105	13.9%	98	13.0%	90	11.9%	62	8.2%	55	7.3%
	1987年4月	19	739	98	13.3%	107	14.5%	98	13.3%	56	7.6%	58	7.8%
	1991年4月	19	737	128	17.4%	103	14.0%	94	12.8%	45	6.1%	58	7.9%
	91-87増減	0	-2	30	4.1%	-4	-0.5%	-4	-0.5%	-11	-1.5%	0	0.0%

政党別当選者数の推移

各年の統一自治体選挙終了時現在の党派による

諸派(含む新 議席数構成比	無所属 議席数構成比	新 議席数構成比	現 議席数構成比	元 議席数構成比	計	うち女性 議席数構成比	うち無投票 議席数構成比
1 0.9%	11 10.1%	34 31.2%	73 67.0%	2 1.8%	109	5 4.6%	0 0.0%
16 13.9%	8 7.0%	23 20.0%	87 75.7%	5 4.3%	115	8 7.0%	11 9.6%
10 8.7%	17 14.8%	36 31.3%	77 67.0%	2 1.7%	115	6 5.2%	0 0.0%
5 4.3%	22 19.1%	27 23.5%	84 73.0%	4 3.5%	115	4 3.5%	0 0.0%
6 5.2%	14 12.2%	28 24.3%	81 70.4%	6 5.2%	115	4 3.5%	19 16.5%
1 0.9%	-8 -7.0%	1 0.9%	-3 -2.6%	2 1.7%	0	0 0.0%	19 16.5%
0 0.0%	10 6.6%	52 34.2%	97 63.8%	3 2.0%	152	7 4.6%	0 0.0%
5 3.1%	12 7.5%	31 19.4%	123 76.9%	6 3.8%	160	6 3.8%	0 0.0%
4 2.5%	13 8.1%	31 19.4%	126 78.8%	3 1.9%	160	10 6.3%	0 0.0%
12 7.6%	7 4.4%	34 21.5%	120 75.9%	4 2.5%	158	16 10.1%	0 0.0%
10 6.3%	11 7.0%	36 22.8%	118 74.7%	4 2.5%	158	15 9.5%	0 0.0%
-2 -1.3%	4 2.5%	2 1.3%	-2 -1.3%	0 0.0%	0	-1 -0.6%	0 0.0%
0 0.0%	206 58.2%	121 34.2%	226 63.8%	7 2.0%	354	4 1.1%	0 0.0%
9 2.4%	215 56.3%	94 24.6%	277 72.5%	11 2.9%	382	11 2.9%	0 0.0%
3 0.8%	213 55.8%	8 2.6%	279 92.4%	15 5.0%	302	16 4.2%	0 0.0%
3 0.8%	194 52.2%	71 19.1%	292 78.5%	9 2.4%	372	31 8.3%	26 7.0%
8 2.2%	182 48.9%	81 21.8%	276 74.2%	15 4.0%	372	38 10.2%	0 0.0%
5 1.3%	-12 -3.2%	10 2.7%	-16 -4.3%	6 1.6%	0	7 1.9%	-26 -7.0%
0 0.0%	118 88.1%	53 39.6%	75 56.0%	6 4.5%	134	0 0.0%	0 0.0%
0 0.0%	96 90.6%	34 32.1%	70 66.0%	2 1.9%	106	0 0.0%	36 34.0%
0 0.0%	85 86.7%	33 33.7%	64 65.3%	1 1.0%	98	1 1.0%	6 6.1%
0 0.0%	79 84.0%	24 25.5%	65 69.1%	5 5.3%	94	5 5.3%	0 0.0%
2 2.2%	76 82.6%	25 27.2%	65 70.7%	2 2.2%	92	6 6.5%	0 0.0%
2 2.2%	-3 -1.4%	1 1.6%	0 1.5%	-3 -3.1%	-2	1 1.2%	0 0.0%
1 0.1%	345 46.1%	260 34.7%	471 62.9%	18 2.4%	749	16 2.1%	0 0.0%
30 3.9%	331 43.4%	182 23.9%	557 73.0%	24 3.1%	763	25 3.3%	47 6.2%
17 2.3%	328 43.4%	108 16.0%	546 80.9%	21 3.1%	675	33 4.4%	6 0.8%
20 2.7%	302 40.9%	156 21.1%	561 75.9%	22 3.0%	739	56 7.6%	26 3.5%
26 3.5%	283 38.4%	170 23.1%	540 73.3%	27 3.7%	737	63 8.5%	19 2.6%
6 0.8%	-19 -2.5%	14 2.0%	-21 -2.6%	5 0.7%	-2	7 1.0%	-7 -0.9%

県議会 市町村議会 党派別議員数

1991年5月現在

	県議会議員										市町村議会議員										任期満了年月日
	定数	自民	社会	公明	民社	民進	共産	無所属	無所属	無所属	定数	自民	社会	公明	民社	共産	無所属	無所属	無所属	無所属	
神奈川県	115	43	29	13	9	1	12	1	6	0	1044	92	100	114	54	91	23	563	6	95.4.29	
横浜市	47	18	15	7	5	0	0	1	1	0	94	31	16	17	15	6	4	5	0	95.4.29	
鶴見区	4	1	1	1	1						8	2	1	2	2	1					
神奈川区	3	1	1	1							7	2	1	1	1	1	1				
西区	1	1									2	1		1							
中区	2	1	1								4	2		1	1						
港北区	4	1	1	1	1						9	2	1	2	1	1	1	1			
緑区	6	2	2	1							11	4	2	2		1	1	1			
1区計	20	7	6	4	2	0	0	1	0	0	41	13	5	9	5	4	3	2	0		
南区	3	1	1	1							6	2	1	1	1				1		
港南区	3	1	1		1						6	3	1	1	1						
保土谷区	3	1	1	1							6	2	1	1	1	1					
旭区	4	1	1	1	1						7	2	2	1	1		1				
磯子区	2	1	1								5	1	1	1	1			1			
金沢区	3	2	1								5	2	1	1	1						
戸塚区	3	1	1		1						7	2	1	1	2	1					
栄区	2	1							1		4	2	1						1		
泉区	2	1	1								4	1	1	1	1						
瀬谷区	2	1	1								3	1	1		1						
4区計	27	11	9	3	3	0	0	0	1	0	53	18	11	8	10	2	1	3	0		
川崎市	16	6	4	1	0	1	0	0	4	0	64	16	12	10	4	10	3	9	0	95.5.2	
川崎区	3	1				1			1		11	2	2	2	1	2		2			
幸区	2	1		1							8	1	2	1	1	1	1	1			
中原区	3	2	1								10	5	1	2	1	1					
高津区	2								2		9	2	2	1		2	1	1			
宮前区	2	1	1								10	3	2	2		1	1	1			
多摩区	2	1	1								9	2	1	1		2		3			
麻生区	2		1						1		7	1	2	1	1	1		1			
横須賀市	6	2	1	1	1		1				48	12	5	8	4	2	1	16		95.5.1	
鎌倉市	2	1	1								30	1	5	3	2	5	2	12		93.5.14	
逗子市	1						1				26	3	2	2	1	2	2	14		94.4.5	
葉山町											20	1	1	1		1	2	14	1	95.4.30	
三浦市	1						1				24	7		2	1	4		10		95.4.30	
2区南部計	10	3	2	1	1	0	3	0	0	0	148	24	13	16	8	14	7	66	1		
2区計	26	9	6	2	1	1	3	0	4	0	212	40	25	26	12	24	10	75	1		
藤沢市	5	2	1	1	1						44	10	8	6	3	5	1	11		95.4.30	
茅ヶ崎市	3	2	1								30	5	5	4	1	2	1	12		95.5.1	
相模原市	8	4	2	1	1						46		4	8	4	3	1	26		95.4.29	
大和市	3	1	1	1							32	3	4	5	3	2	15			95.5.3	
海老名市	1						1				28		3	3	1	3		18		91.10.19	
座間市	2		1				1				28	2	2	3	2	4		14	1	92.9.30	
綾瀬市	1						1				26		3	3	1	2		17		95.4.29	
寒川町	1						1				22		3	2	3	2		12		93.2.24	
津久井郡計	1	1																			
城山町											18		2	2		2		12		95.5.7	
津久井町											20			1		2		17		93.10.25	
相模湖町											16		2			1		13		91.12.31	
藤野町											16		1					14		91.9.19	
3区計	25	10	6	3	2	0	4	0	0	0	326	20	37	37	15	29	5	181	1		
平塚市	3	1	1	1							36		5	5	3	4	2	17		95.4.30	
小田原市	3	2			1						32		5	4	2	3		18		95.4.30	
秦野市	2	1	1								30		4	3	1	2		19		91.9.10	
厚木市	3	2					1				30		2	4	3	3	1	16		91.7.31	
伊勢原市	1										28		1	3	1	3		20		95.4.29	
南足柄市	1						1				26		2	2		2		20	1	95.4.29	
愛甲郡計	1						1														
愛川町											22			1	1	2		18		91.10.14	
清川村											12					1		11		93.4.30	
中郡計	1								1												
大磯町											20		1	1	1	2		16	1	91.7.15	
二宮町											20		1	1		2	1	14	1	90.11.29	
足柄上郡計	1						1														
中井町											16							16		95.4.29	
大井町											20			1		1		18		92.9.30	
松田町											20			1		1		17	1	91.9.30	
山北町											22		1			1		18		95.4.30	
開成町											18			1		1		16		95.4.30	
足柄下郡計	1						1														
箱根町											22			2		2		18		93.9.29	
真鶴町											16	1		3		1		11		93.9.29	
湯河原町											22			2		1		19		92.3.31	
5区計	17	6	2	1	1	0	5	0	1	0	412	1	22	34	12	32	4	302	4		

(社) 神奈川県地方自治研究センター

県内91統一自治体選挙の記録

知事選

神奈川県

＝選管最終発表

当2079546 長洲 一二無 現
 271865 土屋 恒篤 無 新
 215512 山本 正治 諸 新

市長選

◇平塚市◇

＝選管最終発表

当 56690 石川 京一④無 現
 ▼ 52433 吉野稜威雄 無 新

◇茅ヶ崎市◇

＝選管最終発表

当 52460 根本 康明③無 現
 ▼ 30086 小島 幸生 無 新

◇南足柄市◇

＝選管最終発表

当 14173 鈴木 佑①無 新
 ▼ 11215 川上 賢治 無 新

◇大和市◇

井上 孝俊63無 現
 (無投票当選)

◇湯河原町

＝選管最終発表

当 7048 丸山 孝夫 54 無 新
 5890 小沢 忠一 61 無 現

(無効183、持ち帰り0、不受理0)

知事選の市区町村別得票数 (選管確定)

市区町村	土屋恒篤 (無・新)	長洲一二 (無・現)	山本正治 (諸・新)
横浜市	115,703	861,757	89,310
市川市	9,987	64,368	7,732
川崎市	6,778	52,996	5,397
川崎市	2,939	25,885	2,340
川崎市	3,512	29,473	2,786
川崎市	7,023	54,579	5,252
川崎市	7,597	57,565	6,021
川崎市	7,401	55,156	5,114
川崎市	8,951	70,400	6,774
川崎市	5,356	48,028	5,086
川崎市	7,259	56,203	6,249
川崎市	10,003	73,231	8,070
川崎市	14,143	101,355	10,907
川崎市	9,579	64,657	6,402
川崎市	6,403	37,627	4,232
川崎市	4,657	36,326	3,664
川崎市	4,115	33,908	3,284
川崎市	53,221	317,449	38,910
川崎市	12,990	59,464	7,702
川崎市	6,356	44,123	5,349
川崎市	8,255	52,604	6,627
川崎市	6,391	41,857	5,110
川崎市	6,204	43,687	5,446
川崎市	7,872	42,095	4,992
川崎市	5,153	33,619	3,684
川崎市	12,931	121,089	14,083
川崎市	5,261	40,456	3,276
川崎市	6,327	45,123	4,107
川崎市	12,012	91,085	8,688
川崎市	5,591	62,459	5,688
川崎市	4,560	32,991	3,032
川崎市	3,960	13,983	2,412
川崎市	16,255	142,240	15,312
川崎市	1,040	8,318	685
川崎市	3,839	44,426	3,601
川崎市	5,067	49,683	4,336
川崎市	6,066	49,332	4,791
川崎市	2,623	26,615	2,413
川崎市	2,545	26,135	1,890
川崎市	2,262	15,511	1,113
川崎市	1,315	14,947	1,477
川崎市	2,157	23,470	2,379
川崎市	1,298	7,036	1,015
川崎市	612	6,506	509
川崎市	2,220	21,413	2,113
川崎市	1,129	10,586	1,109
川崎市	1,091	10,827	1,004
川崎市	1,215	16,983	1,144
川崎市	243	2,536	208
川崎市	226	3,417	235
川崎市	236	3,269	186
川崎市	296	4,673	270
川崎市	214	3,088	245
川崎市	1,761	17,826	1,768
川崎市	460	4,765	406
川崎市	508	3,396	434
川崎市	793	9,665	928
川崎市	564	7,386	459
川崎市	520	6,548	424
川崎市	44	838	35
川崎市	1,460	15,327	1,001
川崎市	498	4,719	310
川崎市	522	5,187	347
川崎市	209	2,592	169
川崎市	231	2,829	175
市部計	262,735	1,987,069	207,503
市部計	9,130	92,477	8,009
市部計	271,865	2,079,546	215,512

神奈川県議

鶴見区

(定数4-5)
 当24208 横山 哲夫 63自現
 当16325 東野 陽子 58社現
 当16210 横松宗一郎 61公現
 当14250 岩野 至孝 47民新
 11916 倉崎 武二 62共新
 =選管最終発表

神奈川区

(定数3-4)
 当29578 梅沢 健治 62自現
 当17285 木村 憲正 51社現
 当12663 田中文一郎 49公現
 6079 山中 栄司 46共新
 =選管最終発表

西区

(定数1-3)
 当13898 斎藤 達也 56自元
 9899 田上 等 41社新
 7435 鈴木 喜一 81無現
 =選管最終発表

南区

(定数3-4)
 当20751 新堀 典彦 50自現
 当17052 安斎 義昭 41社新
 当16359 葛西 清孝 53公現
 12832 鶴田 耕一 52自新
 =選管最終発表

港南区

(定数3-4)
 当22472 山村 幸雄 39社新
 当17178 内田 愼 44自新
 当15389 内田 晃 52民新
 15004 荒井 正巳 58自現
 =選管最終発表

保土ヶ谷区

(定数3-4)
 当22950 森 秀子 57社現
 当21175 榎並 寛 52自現
 当12807 渋谷 文久 53公現
 10709 高谷 清 43民新
 =選管最終発表

旭区

(定数4-6)
 当21045 相馬 元治 67自現
 当16370 樋口 旭 48社現
 当15487 佐藤 正之 51民現
 当14121 中原 淳一 47公現
 14021 勝又恒一郎 28無新
 6189 萩島フミ子 45共新
 =選管最終発表

磯子区

(定数2-3)
 当22214 新井敏二郎 59自新
 当18829 林 貞三 54社現
 16890 岡田 吉弘 65民現
 =選管最終発表

金沢区

(定数3-4)
 当21104 安部 正 59社現
 当16749 峯尾 舜 43自新
 当15908 国吉 一夫 49自新
 15565 阿部 紀慶 50民現
 =選管最終発表

港北区

(定数4-6)
 当29437 島村 尚美 63自現
 当18002 成島 敏行 61社現
 当16769 計屋 圭宏 46民現
 当14935 金子 武雄 46公新

7551 市田 陽子 35諸新
 5820 庄司千鶴子 51共新
 =選管最終発表

緑区

(定数6-9)
 当24271 三好 吉清 52自現
 当23019 小島 幸康 65自現
 当17279 渡辺 清 56公現
 当16536 石原 守 54社現
 当14392 渡辺 光子 40不新
 当11383 勝野 健治 33社新
 9207 峰村 利江 49共現
 8016 広瀬鉄太郎 58民現
 3961 佐藤 充子 56諸新
 =選管最終発表

戸塚区

(定数3-4)
 当28811 南雲 勝利 47民現
 当26505 梅木 武夫 60社現
 当18048 松田 良昭 38自現
 7528 佐藤 清 36共新
 =選管最終発表

栄区

(定数2-4)
 当12737 酒井 文彦 37無新
 当12511 保阪 努 46自新
 11838 星野 昭雄 65諸新
 11320 虎岩 英伍 48社現
 =選管最終発表

瀬谷区

(定数2-3)
 当18399 小沢 茂 62自新
 当16854 中尾 安治 63社現
 5773 高橋 千代 47共新
 =選管最終発表

党派別立候補者数	県議				横浜市議				川崎市議			
	計	現	元	新	計	現	元	新	計	現	元	新
自民	43	31	3	9	31	25	2	4	16	14	0	2
社会	29	21	0	8	16	13	0	3	12	11	0	1
公明	13	11	0	2	17	12	0	5	10	8	0	2
共産	1	0	0	1	6	4	1	1	10	6	0	4
民社	9	6	0	3	15	14	0	1	4	3	0	1
ネット	1	0	0	1	4	3	0	1	3	0	0	3
大諸	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
派	5	3	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0
無所属	14	9	2	3	2	1	0	1	9	3	0	6
合計	115	81	6	28	94	73	4	17	64	45	0	19

川崎区

(定数3-4)
 当24311 田中 和徳 42自新
 当21617 武田郁三郎 58無元
 当17911 畑谷 嘉宏 45共新
 17569 菅原 進 43公新
 =選管最終発表

幸区

(定数2-3)
 当24307 山田吉三郎 59自現
 当17652 此村 善人 43公現
 14089 村田せい子 42社新
 =選管最終発表

中原区

(定数3-4)
 当23493 原 正巳 61自現
 当21058 奥村 栄 65社現
 当15639 田島 信二 33自新
 7003 赤塚 博美 40共新
 =選管最終発表

高津区

(定数2-3)
 当19505 小川 栄一 47諸現
 当18129 斉藤 雄輝 49無元
 15543 石川 滋 65社現
 =選管最終発表

宮前区

(定数2-3)
 当26650 小泉 一郎 60自現
 当15412 三宅 丈夫 56社現
 12663 寺田 悦子 55共新
 =選管最終発表

麻生区

(定数2-3)
 当21136 松沢 成文 33無現
 当12474 小林フミ子 65社現
 9344 山崎 泰則 40自新
 =選管最終発表

横須賀市

(定数6-7)
 当31777 竹内 清 66自現
 当24616 牧島 功 46自現
 当23336 高村万之助 59公現
 当22409 斉藤 正 65社現
 当20088 高島 忠雄 55民現
 当18836 青井 貴 62無現
 8832 山田 良夫 65共新
 =選管最終発表

鎌倉市

(定数2-6)
 当14235 細谷 忍平 66自新
 当12319 小泉 親昂 45社新
 11093 中村 省司 46無現
 7137 前野 正司 40民新
 6405 石井 満 42無新
 4905 吉岡 和江 43共新
 =選管最終発表

藤沢市

(定数5-8)
 当22873 番場 定孝 50自現
 当16656 服部 圭介 45公現
 当16311 榊居 祐三 56社現
 当15323 小川松太郎 54民新
 当15020 熊山喜三郎 73自現
 11628 日原 通晴 48社新
 8918 大山 正雄 52共新
 6828 三笥 貴義 42無新
 =選管最終発表

小田原市

(定数3-4)
 当25023 小沢 良明 47自現
 当17052 豊島 輝慶 47民現
 当16694 秋山 政勝 48自元
 15970 岩田 勤 58社現
 =選管最終発表

逗子市

(定数1-2)
 当17248 矢部 房男 38無新
 12342 森 慎一 69無新
 =選管最終発表

相模原市

(定数8-12)
 当26841 富田 光男 48公新
 当24013 小川 勇夫 60自元
 当22836 桐生 忠一 52自現
 当19020 岩本 直通 73自現
 当18033 赤間 一之 54自現
 当16474 太田 恵 50社新
 当13787 広田 武治 61社現
 当13647 石井 充 67民現
 13107 山下 広一 64共現
 4758 小林 教利 31無新
 3097 尾出 久代 41諸新
 584 川口 勝信 48無新
 =選管最終発表

秦野市

(定数2-5)
 当19597 久保寺邦夫 54自現
 当11281 諸星 富夫 55社新
 10542 古谷 義幸 43無新
 9555 高橋 徹夫 42無新

963 藤岡美保子 32無新
 =選管最終発表

厚木市

(定数3-4)
 当17389 山口 鷹雄 48自現
 当16404 小沢 金男 62自現
 当15516 堀江 則之 47諸元
 10331 大桃 正子 36社現
 =選管最終発表

大和市

(定数3-4)
 当20964 富沢 鷹紘 51自現
 当15332 益田 駿 50公現
 当15076 遠藤 忍 67社現
 9411 時得 貴治 30無新
 =選管最終発表

伊勢原市

(定数1-2)
 当18140 飯田 光雄 67諸現
 13422 石井 和洋 39無新
 =選管最終発表

海老名市

(定数1-2)
 当18393 水島 祐吉 63諸現
 11995 平岡 幸雄 58社新
 =選管最終発表

南足柄市

(定数1-2)
 当10406 山室 清 71無現
 7162 青木 尚行 44無新
 =選管最終発表

綾瀬市

(定数1-3)
 当10336 佐竹 正道 61諸新
 9706 笠間 茂治 41無新
 7779 山中 寿 53無新
 =選管最終発表

中郡

(定数1-3)
 当 9356 古沢 時衛 45無新
 8448 古沢 吉郎 56無現
 8194 吉川 重雄 46諸新
 =選管最終発表

足柄下郡

(定数1-2)
 当14506 高橋 実 55無現
 6972 青木 智子 48無新
 =選管最終発表

県会無投票当選者 14名

中区

竹内 清晴 42 社 新①
村上 健司 52 自 現③

平塚市

塩沢 三郎 53 公 現③
府川 勝 47 自 現④
木村 勝治 53 社 現②

座間市

菅原 和洋 49 社 新①
小堺 金治 68 無圏現⑤

泉区

鈴木 一誠 48 自 現④
杉山喜三男 66 社 現⑥

茅ヶ崎市

添田 高明 55 自 現⑤
小川伊之助 67 社 現⑥
横田 光弘 33 自 現②

高座郡

大久保千仞 62 無圏現④

足柄上郡

田村 政晴 54 無圏現④

多摩区

井口 隆時 71 自 現⑤
青島 章介 53 社 現②

三浦市

吉田 実 70 無圏現③

愛甲郡

小島 鎮夫 68 無圏現④

津久井郡

榎本 与助 45 自 現②

神奈川県内 市議選

横浜市

◇鶴見区

(定数8-11)

当13533 鶴山 良一 41自新
当11025 北村 昭三 58民現
当 9568 山田 一海 45自現
当 9317 宮下 義正 55社現
当 7875 中野 壽寿 54公現
当 7802 宮下 泉 50共現
当 7724 丸岡 哲也 53公現
当 6331 門岡 繁 65民現
3819 酒井 孝一 41社新
3388 井上 桜 26請新
2939 舛本 正子 46ネ新
=選管最終発表表

◇神奈川区

(定数7-8)

当12055 福田 進 49自現
当11364 加藤 尚彦 54自現
当10467 石井 睦美 44公現
当 8148 中川 俊介 50社現
当 7930 宮本 正夫 78民現
当 6947 蟹沢 道子 49ネ現
当 4935 柴田 豊勝 44共新
4348 山口 英雄 40社新
=選管最終発表表

◇西区

(定数2-5)

当12194 菅 義偉 42自現
当 9565 後藤 洋一 55公現
5329 菅沢 啓 53社新
3947 金子 勝雄 60民元
633 菅野 政明 31請新
=選管最終発表表

◇中区

(定数4-6)

当 9339 伊波洋之助 47自現
当 7768 松本 純 40自現
当 6902 竹中 吉晴 41公新
当 4792 小俣 健 58民現
4771 広瀬 礼子 60社現
3233 宇都宮夕美子 41共新
=選管最終発表表

◇南区

(定数6-7)

当13661 斎藤 勤 45社現
当13444 遠藤 望 56公現
当10953 鈴木 正之 57自現
当 8168 酒井 豊四 70無現
当 7958 酒井 麻雄 61民現
当 7015 丸山 峰生 43自新
6830 竹田 綾子 57共現
=選管最終発表表

◇港南区

(定数6-7)

当13600 安藤 和男 51社現
当12248 高橋 稔 35公新
当11576 日野井一雄 50自現
当 8938 潮之岡 功 63自現
当 8736 古郷 敦信 49自現
当 8647 池谷 泰一 50民現
8412 関 美恵子 45共新
=選管最終発表表

◇保土ヶ谷区

(定数6-12)

当10443 堀井 和弘 50公新
当 8970 中村 達三 50自現
当 8898 森 敏明 41民新
当 7779 坂井 忠 52自現

当 6632 大越 結夫 48社新
当 6168 内堀八重子 65共現
5875 間野 和彦 46無新
5485 加藤 賢治 48社現
3605 饗崎 康子 40ネ新
2962 田中 忠昭 47無新
1722 荒木 二男 54無新
78 吉川 朝臣 57請新
=選管最終発表表

◇旭区

(定数7-9)

当14778 佐藤 茂 36自新
当13399 内田 武夫 70自現
当12655 和田 卓生 37公新
当10657 青景 孝子 44ネ現
当10075 栗原 幸雄 63民現
当 9388 大庭 悟彰 48社現
当 8407 橋本切太郎 64社現
6420 難波 宏次 47共新
1547 大平 頼義 45無新
=選管最終発表表

◇磯子区

(定数5-9)

当 9866 関 貞彦 55自現
当 8890 松浦 豊朝 54民現
当 8881 佐野 弘 58公現
当 8582 太田 正孝 45請現
当 8542 橋本 一男 64社現
5409 浅田 康夫 64自元
4442 矢作久美子 41共新
4084 永島 順子 36ネ新
863 島根 正昭 44無新
=選管最終発表表

◇金沢区

(定数5—7)

- 当13935 小崎 正雄 48民現
 - 当13508 相川 光正 56自元
 - 当11722 黒川 澄夫 55自現
 - 当9941 谷田部孝一 41社新
 - 当8650 中島 忠雄 53公現
 - 6725 松本志津子 56共現
 - 6714 植野 道子 43ネ新
- ＝選管最終発表

◇港北区

(定数9—12)

- 当13451 大久保純男 46自現
 - 当11304 吉原 良治 56自現
 - 当9439 木内 博 34諸元
 - 当8413 酒井 喜則 57社現
 - 当8218 鈴木 義久 46公現
 - 当7906 松本久美子 41ネ新
 - 当7741 横溝 義久 51民現
 - 当7541 木村 久義 40公現
 - 当6172 高野 阴子 51共元
 - 6060 高橋 良平 57社現
 - 5465 浦山 衛治 42無新
 - 1040 鈴木 史 44無新
- ＝選管最終発表

◇緑区

(定数11—16)

- 当14252 小林昭三郎 62自現
 - 当12274 嶋村 勝夫 50自現
 - 当11343 木村 一男 40無新
 - 当10838 向山 映子 44ネ現
 - 当10400 矢島 誠治 62自現
 - 当9936 吉村 米寿 59自現
 - 当9154 小林 達夫 43社新
 - 当8934 井川 国雄 46公現
 - 当8875 石井 義了 52公現
 - 当8691 丹野 貞子 54社現
 - 当6836 大貫 憲夫 43共現
 - 5828 松山嘉代司 35民新
 - 4268 佐藤 一子 47ネ新
 - 3893 木川 靖生 47諸元
 - 1782 安田 卓全 71諸現
 - 1586 原田 建 26諸新
- ＝選管最終発表

◇戸塚区

(定数7—11)

- 当11770 吉原 訓 44自現
 - 当11263 鈴木喜太郎 44自新
 - 当10195 大滝 正雄 45公現
 - 当8860 川辺 芳男 36民現
 - 当8764 星野 国和 44社現
 - 当8532 内田 重雄 49民現
 - 当7465 高橋紀代子 53共現
 - 6207 桜井 康敏 43社新
 - 5474 大西 誓子 44ネ新
 - 2675 鈴木 直子 27諸新
 - 686 大山 幹弘 44無新
- ＝選管最終発表

◇栄区

(定数4—8)

- 当9615 飯島 忠義 45自現
- 当7739 皆川 昭一 49諸新
- 当6878 野村 政晴 66社現

- 当6813 角田 和宏 55自現
 - 6463 井上 浩明 55公現
 - 6424 菅野 義矩 43民新
 - 3338 西岡 政子 45ネ新
 - 2203 石沢 庸憲 61共元
- ＝選管最終発表

◇泉区

(定数4—5)

- 当11987 奥津 高雄 59自現
 - 当11570 松本 敏 44民現
 - 当8540 中島 憲五 44社現
 - 当7705 清水 儀雄 60公現
 - 5569 池田 光枝 44共新
- ＝選管最終発表

◇瀬谷区

(定数3—4)

- 当13462 川口 正寿 48自元
 - 当12326 花上喜代志 44民現
 - 当8026 内川 健治 50社現
 - 7720 増田 恒雄 59共元
- ＝選管最終発表

川崎市

◇川崎区

(定数11—15)

- 当7593 小俣 博 68自現
 - 当7485 兼次 吉雄 57公現
 - 当7349 増湖 栄一 60無現
 - 当7333 小林良美子 39公新
 - 当7194 近藤 正美 55民現
 - 当6848 飯塚 双葉 57共現
 - 当6429 藤衣 敏則 44自新
 - 当6371 菅原 春夫 47共現
 - 当6228 菜畑 瑞則 49社現
 - 当5963 坂本 茂 41無新
 - 当5290 飯塚 正良 40社新
 - 4079 場崎 利則 51自新
 - 2139 藤田 裕子 44ネ新
 - 998 鬼茲千枝子 37諸新
 - 105 渡辺 延久 58諸新
- ＝選管最終発表

◇幸区

(定数8—10)

- 当9598 深瀬 浩由 50公現
 - 当9112 野村 敏行 54自現
 - 当7701 佐藤 忠次 55民現
 - 当7375 中川 啓 46無新
 - 当6786 竹間 幸一 43共現
 - 当4783 渡辺 好雄 69社現
 - 当3861 田中 浜男 67社現
 - 当3534 千葉美佐子 36ネ新
 - 3478 金井 弘年 51無新
 - 628 武樋 信之 36諸新
- ＝選管最終発表

◇中原区

(定数10—15)

- 当6967 立野 千秋 43社現
- 当6950 原 修一 42自現
- 当6265 長瀬 政義 52自新
- 当5923 志村 勝 43公現
- 当5888 潮田 智信 37民新
- 当5847 松島 輝雄 50公現
- 当5732 市川代三郎 58自現

- 当5095 高 澄 55自現
 - 当4945 市古 映美 41共現
 - 当4409 長谷川泰弘 44自現
 - 4351 福島 善治 55社現
 - 3776 徳竹 喜義 27共新
 - 2068 津島 梅子 46ネ新
 - 1097 山田 徹子 29諸新
 - 338 並木 鈴男 55無新
- ＝選管最終発表

◇高津区

(定数9—10)

- 当9782 水科宗一郎 52公現
 - 当8293 大島 保 65自現
 - 当5629 宮田 良辰 64自現
 - 当5471 森 宏一 61無現
 - 当4915 小島 恵一 61社現
 - 当4903 佐藤 忠 49社現
 - 当4391 猪股 美恵 41ネ新
 - 当4201 西村 英二 49共新
 - 当4172 鈴木 淑 55共現
 - 3014 葛西 稔 29民新
- ＝選管最終発表

◇宮前区

(定数10—11)

- 当6573 小泉 昭男 45自現
 - 当5784 中尾 治夫 69自現
 - 当5721 矢沢 博孝 47無新
 - 当5674 田辺 美光 64自現
 - 当5610 増子 利夫 61社現
 - 当5446 佐藤 洋子 39ネ新
 - 当5252 平子 瀧夫 44公現
 - 当5241 大場 正信 50公現
 - 当4632 宮崎 光雄 42共新
 - 当3682 青山 仁三 60社現
 - 3505 柏木 雅章 58民現
- ＝選管最終発表

◇多摩区

(定数9—14)

- 当7201 本間 悦雄 43公新
 - 当5072 佐藤 光一 30無新
 - 当4483 市村 護郎 56共現
 - 当4355 遠藤 恭 69自現
 - 当4287 原島 兼房 66自現
 - 当4167 山根 堅二 61無現
 - 当4060 上原 国男 58無新
 - 当3667 斎藤 隆司 39共新
 - 当3531 玉井 信重 46社現
 - 3484 井田 肇 50自新
 - 3349 吉沢 西友 59民現
 - 3246 飯田 菊恵 40無現
 - 3216 町田 勇 59社現
 - 2280 富永 早苗 40ネ新
- ＝選管最終発表

◇麻生区

(定数7—9)

- 当8879 小島 一也 63自現
 - 当6752 笠原 勝利 53無新
 - 当5463 菅原 敬子 54社現
 - 当5312 雨笠 裕治 32民現
 - 当5048 山田 保 62社現
 - 当4439 小川 秀明 53公現
 - 当3591 橋本 隆 38共新
 - 3041 砂川 真澄 48ネ新
 - 1155 上田 浩 57無新
- ＝選管最終発表

横須賀市

(定数48-52)

当	5843	一場	美津郎	55	無現
当	5318	加藤	行一	56	無現
当	4814	川名	武雄	70	自現
当	4707	長谷川	淳一	54	民現
当	4658	佐藤	良一	59	民現
当	4610	三川	峰雄	56	無現
当	4541	青木	茂	62	無現
当	4251	矢島	真知子	41	新
当	4172	渡辺	和俊	49	自現
当	4107	竹折	輝隆	47	自現
当	4057	山田	泰之	49	公現
当	4027	増田	隆三	59	無現
当	3950	井村	克己	61	自現
当	3914	板橋	衛	42	公新
当	3850	加藤	純子	57	無現
当	3787	嘉山	照正	44	無現

当	3631	安田	和義	51	公現
当	3624	加納	洋一	53	公現
当	3602	土屋	嘉信	46	無新
当	3597	高橋	正勝	60	無現
当	3522	水口	幹雄	52	民現
当	3510	杉山	雄二	46	公現
当	3377	鶴田	晃	42	公新
当	3364	内藤	洋湖	49	社現
当	3347	奥山	勝英	54	公現
当	3285	石山	良夫	63	自現
当	3285	高橋	敏明	54	無現
当	3258	小久江	利光	48	民現
当	3194	岩崎	一男	68	自現
当	3172	山口	道夫	46	無新
当	3162	川島	幸雄	60	自現
当	3144	難波	初男	69	自現
当	3112	秋山	邦博	57	社現
当	3102	今野	弘	51	自現
当	3098	木村	正孝	48	自現

当	3094	渡辺	好徳	63	社現
当	3080	相保	浩	55	無現
当	3075	山ノ上	好勝	41	社現
当	3064	松井	晋三	53	無新
当	3013	榎岸	峰夫	51	自現
当	2879	本田	実	61	自現
当	2860	後藤	秀樹	55	無現
当	2842	山下	眞	54	無新
当	2803	磯崎	清男	56	無新
当	2786	一柳	洋	41	社新
当	2733	小松	祐山	61	共現
当	2706	信渡	吉男	73	自現
当	2650	坂倉	昌子	54	自新
当	2568	石沢	俊男	50	共現
当	2056	鈴木	茂樹	43	無新
当	816	迫田	富雄	41	諸新

一連行出終発表

藤沢市

(定数44-50)

当	5045	鈴木	明夫	50	民現
当	3951	鈴木	桓夫	41	自現
当	3809	海老根	靖典	35	無新
当	3773	二上	高	51	民新
当	3616	桜井	郁三	47	自元
当	3567	古橋	宏造	45	社新
当	3126	桜井	正平	54	自現
当	3072	栗原	義夫	48	自現
当	2989	関根	久男	68	無現
当	2895	水越	靖典	49	自新
当	2885	矢島	豊海	60	無現
当	2884	宮治	政弘	59	自現
当	2825	吉田	信行	54	無現
当	2800	井上	正一郎	56	自現
当	2781	西条	節子	62	無現
当	2747	長田	良彦	62	自現
当	2744	水島	正夫	42	無新
当	2730	清水	勝人	51	公現
当	2689	関根	宗四郎	58	無現
当	2581	西尾	まづ枝	57	社現
当	2574	加藤	章二	60	公現
当	2564	瀬川	進	51	社現
当	2558	藤谷	昌男	54	共現
当	2548	落合	四郎	65	自現
当	2546	中山	五福	55	社現
当	2521	村上	梯介	46	公現
当	2511	長谷川	忠勤	66	民現
当	2483	山口	敏夫	53	社現
当	2470	桑原	正一	60	共現
当	2470	岸本	英夫	55	公現
当	2443	藤村	久子	46	社現
当	2364	木村	榮子	43	社現
当	2340	増井	秀夫	40	公現
当	2326	五十嵐	紀子	52	社現
当	2277	内田	末吉	53	公現
当	2246	広田	忠男	52	自新
当	2240	黒江	貞子	63	社現
当	2213	今村	信也	48	共現
当	2140	田松	誠	29	無新
当	2050	井上	好明	64	無現
当	2043	宮地	淳子	44	共現
当	2018	柳沢	潤次	39	共新
当	1938	二見	友久	49	無元

市議選党派別当選者数

カッコ内は前
回当選者数。
丸数字は女性

	横須賀市	平塚市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	相模原市	三浦市	大和市	伊勢原市	南足柄市	綾瀬市
定数	372	48	36	44	32	30	46	24	32	28	26
自民	34	12	-	7	-	5	-	7	3	-	0
現元新計	1	0	-	1	-	0	-	0	0	-	0
2	0	-	-	2	-	0	-	0	0	-	0
37	12	-	10	-	5	-	7	3	0	-	0
(29)	(12)	(1)	(6)	(-)	(2)	(-)	(5)	(2)	(-)	(1)	(-)
社会	36	4	5	7	4	5	2	-	3	1	2
現元新計	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
6	1	0	1	1	0	0	2	-	1	0	0
42	5	5	8	5	5	4	-	4	1	2	3
(41)	(6)	(6)	(7)	(4)	(4)	(4)	(-)	(4)	(1)	(2)	(3)
公明	42	6	4	6	3	3	7	2	4	3	1
現元新計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0
50	8	5	6	4	4	2	8	2	5	3	2
(50)	(8)	(5)	(6)	(4)	(4)	(8)	(2)	(5)	(3)	(2)	(3)
共産	24	2	2	4	2	2	3	2	3	1	2
現元新計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1
33	2	4	5	3	2	3	4	3	3	2	2
(32)	(3)	(4)	(5)	(3)	(4)	(3)	(4)	(4)	(2)	(2)	(2)
民社	17	4	3	2	1	1	3	1	-	1	-
現元新計	1	0	0	0	0	0	1	0	-	0	-
2	0	0	0	1	0	0	0	0	-	0	0
20	4	3	3	2	1	1	4	1	-	1	1
(23)	(4)	(4)	(4)	(3)	(1)	(3)	(1)	(-)	(2)	(-)	(1)
諸派	3	0	1	1	-	0	0	-	1	-	-
現元新計	0	0	0	0	-	0	0	-	0	-	-
5	1	1	0	-	1	1	-	-	-	-	-
(8)	(1)	(2)	(1)	(-)	(1)	(1)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)
(3)	(-)	(1)	(1)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
無所属	120	11	11	7	13	7	23	7	13	9	7
現元新計	10	0	0	1	1	1	1	2	1	1	0
52	5	6	3	4	4	2	1	1	10	13	3
182	16	17	11	18	12	26	10	15	20	20	17
(194)	(15)	(17)	(16)	(19)	(15)	(27)	(12)	(17)	(20)	(19)	(17)
合計	276	39	26	34	23	23	38	19	27	15	12
現元新計	15	0	2	2	1	1	2	2	2	2	0
81	9	8	8	8	6	6	3	4	11	14	4
(372)	(48)	(36)	(44)	(32)	(30)	(46)	(24)	(32)	(28)	(26)	(26)

当	1931	柳谷	亮子	45無現
	1868	沼田	安子	41永新
	1676	和川	洋一	39無新
	1096	中山	英男	65無新
	651	上田	英俊	51無新
	352	平本	茂子	61無新
	227	山本	省三	40無新

—選挙最終発表

平塚市

(定数36—39)

当	5418	府川	勝司	67民現
当	4653	伊藤	亨	29無現
当	3984	落合	良延	60無現
当	3867	加藤	武政	46無新
当	3777	水野	泰助	41民現
当	3588	原	孝子	59共元
当	3553	長塚	洋三	56民現
当	3358	總坂	光俊	49公現
当	3217	橘川	幸子	60無現
当	3206	加藤	寛公	59無現
当	3089	古家	安正	47無現
当	3052	高梨	孝治	46公現
当	3051	片倉	常夫	58無現
当	2990	大蔵	律子	52無現
当	2978	松崎	清子	44公現
当	2956	三上	正	52共現
当	2937	小林	保雄	54無新
当	2733	奥山	晴治	48公現
当	2731	前田	晃	50公現
当	2599	志村	和子	39永新
当	2595	田中	幸雄	47共元
当	2584	永井	三男	55無新
当	2577	佐藤	宏	55無新
当	2555	柳川	藤一	65社現
当	2555	土屋	照久	65社現
当	2497	山口	幸男	62無現
当	2460	栗田	己好	48無新
当	2425	岡崎	伊和男	56社現
当	2374	細野	忠彰	53無新
当	2277	脇	辰雄	63無現
当	2272	武井	ひろ子	43永現
当	2189	上原	孝生	59無現
当	2102	岡本	清司	58無現
当	2037	田元	香	50共現
当	1989	後藤	輝彦	48社現
当	1873	神谷	隆	62社現
	1244	石田	武雄	44無新
	1077	山崎	順英	52無新
	227	佐々木	邦彦	36無新

—選挙最終発表

小田原市

(定数32—37)

当	4360	守屋	高代松	60無現
当	3939	志沢	清	54無新
当	3894	磯貝	捷彦	47無現
当	3336	大野	真一	49無現
当	3274	山田	文雄	43無現
当	3228	二見	健一	51公現
当	3223	田中	富三	62無新
当	3204	相川	正義	74社現

当	2967	高村	和雄	58公現
当	2910	中野	隆雄	46無現
当	2865	石黒	明	64社現
当	2857	小松	久信	42公新
当	2847	穂坂	英山	47無新
当	2729	高松	民吉	54公現
当	2702	椎野	恵二	60無現
当	2659	池田	六美	55無現
当	2583	谷神	久雄	53社新
当	2529	加藤	巴工	74無現
当	2486	関野	隆司	43共新
当	2479	下川	裕平	61無現
当	2443	細田	常夫	60無元
当	2430	山口	辰章	59無現
当	2407	多田	清	61無新
当	2407	大曾	根清治	65無現
当	2382	岡崎	明	56共現
当	2310	中村	保	60社現
当	2298	内田	輝夫	62共現
当	2291	川口	真男	60無現
当	2189	今井	英冠	69民現
当	2123	花岡	悦郎	63社現
当	2123	吉田	晴治	63無現
当	2096	小林	俊夫	57民新
当	2000	須田	勝次	61民現
当	1911	下村	英之	48無現
当	1897	中島	春子	58無新
当	1620	戸田	利幸	42無新
当	411	古沼	利幸	53無新

—選挙最終発表

茅ヶ崎市

(定数30—37)

当	4817	加藤	大嗣	27無新
当	3653	山崎	永蔵	51無現
当	3057	市川	誠	57無元
当	3028	山下	孝子	49公新
当	2968	金子	孝一	51社現
当	2793	瀬田	恵子	38永新
当	2787	浜田	敏江	54公現
当	2680	中嶋	皓夫	50社現
当	2670	西井	信雄	59公現
当	2664	青山	正子	54無現
当	2609	高橋	輝男	40公現
当	2581	佐々木	良文	64共現
当	2480	西沢	良春	43社現
当	2433	吉川	幸雄	55社現
当	2409	岸	良峰	57社現
当	2343	服部	信明	29無現
当	2343	宮本	一夫	43自現
当	2311	鎌ヶ江	洋子	46無新
当	2246	石黒	一雄	61民現
当	2229	堀川	十彦	60無新
当	2198	新倉	弘保	43無現
当	2187	山上	武久	51無新
当	2132	佐藤	富士夫	54自現
当	1950	中田	千代吉	69自現
当	1944	日根	一男	67無現
当	1931	吉開	輝隆	58自現
当	1873	梶野	忠蔵	61無現
当	1856	溝口	聡子	66共現
当	1799	岡本	貞雄	56無現
当	1783	岸	芳雄	69自現

1738	内田	品子	50共現
1631	比留川	八重子	53社新
1453	熊沢	晶	64無元
1441	南里	吉夫	57共現
1226	松本	幹夫	58無新
1144	平井	資	62無現
405	江畑	直俊	48無新

—選挙最終発表

相模原市

(定数46—55)

当	7227	青山	猛	45無現
当	6710	細谷	達司	58無現
当	5364	大石	実	49無現
当	4977	石井	千太郎	55無現
当	4934	山岸	一雄	55無現
当	4818	山下	昌志	54無現
当	4671	大貫	基嗣	49無新
当	4630	河本	文吉	66無現
当	4615	長友	義樹	46無現
当	4598	小磯	洗	67無現
当	4563	秋山	原宏	54社現
当	4557	高橋	修一	44民現
当	4516	金井	準一	61無現
当	4370	小倉	増三	49公現
当	4361	鴨下	大二	51民現
当	4358	小山	一夫	61無現
当	4259	滑瀧	誠之	67無現
当	4195	宮崎	昇	58無現
当	4125	金井	ハツエ	50公現
当	4112	小林	一郎	42公現
当	4035	小俣	旭	63無新
当	3922	渡谷	忠蔵	72無現
当	3911	由比	昭男	57民現
当	3883	高橋	定雄	64公現
当	3881	古木	秀夫	58無現
当	3869	角田	毛利	57公現
当	3866	細谷	隣	65無現
当	3848	久保	田森則	58無現
当	3841	今井	満	55無現
当	3766	上田	忠男	56公現
当	3721	山田	弘	49公現
当	3704	佐藤	賢司	45無元
当	3694	山崎	順二	40公新
当	3636	木村	峰子	57共現
当	3596	折笠	峰夫	47無現
当	3555	秋元	幸作	65無現
当	3408	荒井	昭二	63無現
当	3368	川手	秀和	44共現
当	3306	田中	仁	68無現
当	3185	菅野	道子	49共現
当	3146	吉塚	賢一郎	45社新
当	3091	福来	規	56民元
当	3082	友成	洋一	46社現
当	3081	若林	恵子	42永新
当	2878	金子	豊貴男	41社新
当	2786	井上	一雄	66無現
当	2381	丸山	淑子	44共新
当	2237	西村	綾子	51無新
当	2227	柳町	慶治	62社現
当	2167	吉田	保彦	44無新
当	1898	長谷川	久美子	29諸現
当	1620	落合	芳平	57無新

1541 黒沢 延夫 39社新
 1224 小林美穂子 48進新
 780 伊藤 盛男 62無新
 一選管最終発表

三 浦 市

(定数24—26)

当 2230 小林 一也 54無現
 当 1448 小林 直樹 34共新
 当 1395 関本 禮司 36公現
 当 1366 藤佐 宏 58無現
 当 1365 立花毅一郎 62公現
 当 1340 吉田 益夫 58自現
 当 1271 神田 健二 43自現
 当 1247 木村 玄徳 42無現
 当 1218 長島 政男 68無現
 当 1132 松原 安雄 54無元
 当 1090 石波 定子 61自現
 当 1066 渡辺 眞次 57自現
 当 1061 田辺啓士雄 50自現
 当 1040 指原 晋郎 49民現
 当 944 松井 喜一 65無現
 当 924 下里 一雄 63自現
 当 828 亀田 栄 57共現
 当 826 高木 和雄 61自現
 当 825 四宮 洋二 49無現
 当 814 中野 秀吉 41無新
 当 810 岩野 匡史 50共現
 当 754 杉山 祐司 58共新
 当 744 内藤 正次 72無元
 当 721 加藤 建 54無現
 当 697 松井久仁夫 62無元
 当 590 網 順一 51無新
 一選管最終発表

大 和 市

(定数32—36)

当 2757 伊東 孝雄 54無現
 当 2487 小沢 昭治 64無現
 当 2458 出浦 経 49公現
 当 2419 狹窪 幸一 35社新
 当 2396 石井 一夫 50無新
 当 2339 綱島 啓司 42公新
 当 2331 大木 敏治 56公現
 当 2319 高橋 富蔵 61無現
 当 2317 北島 忠義 67無現
 当 2307 土屋 侯保 45無現
 当 2279 石川 公弘 56無現
 当 2269 真壁 以脩 59無現
 当 2263 大波 修二 44社現
 当 2256 安藤 博夫 43自現
 当 2221 鈴木恵美子 44新
 当 2216 北島 武司 71無現
 当 2067 宇津木朋子 48新現
 当 2060 土屋 孝夫 61公現
 当 1992 池田俊一郎 43公現
 当 1972 大橋 愛 59社現
 当 1904 藤本金太郎 63無現
 当 1868 鈴木久次郎 58無現
 当 1835 窪 純 52共現
 当 1824 高下 晴明 60無現
 当 1770 村越 剛 54共現

当 1769 中村 晴良 62無現
 当 1719 石井 翼郎 49無元
 当 1655 山崎 清 62無現
 当 1649 山下 重信 68自現
 当 1637 浦野 恒干 55自現
 当 1610 宮応扶美子 46共現
 当 1306 太田 德行 50社現
 当 1284 鈴木 利男 60共現
 当 1154 神崎 勇 51無新
 当 914 大矢 東 66無新
 当 703 津森 正也 66進元
 一選管最終発表

伊 勢 原 市

(定数28—29)

当 2061 葛貫 澄雄 60無現
 当 2034 岩崎 尊之 34無新
 当 1879 前田 好夫 46民現
 当 1800 細野 収司 54無現
 当 1789 細野 真司 52無新
 当 1694 高山松太郎 41無新
 当 1522 長塚 栄 65無現
 当 1472 大庭 豊 54共元
 当 1418 石井 誠一 49社現
 当 1358 大川 一雄 44無新
 当 1356 榎本 一雄 57公現
 当 1348 勝又 敦子 50共現
 当 1340 成田 賢徳 53無新
 当 1310 山田 敬子 48無現
 当 1307 飯田 昌弘 53公現
 当 1305 大谷 弘 56無新
 当 1296 石川 一正 55無現
 当 1279 清水 輝雄 50無新
 当 1266 湯井 博 69無現
 当 1181 笠原 国昭 45共新
 当 1163 越地 正 60無元
 当 1123 山崎三郎 62公現
 当 999 山口 勝夫 50無現
 当 919 延原 昌樹 58無現
 当 905 中野 健三 64無新
 当 903 柏木 光男 55無新
 当 893 増田 能高 51無新
 当 886 佐藤 秋男 66無現
 当 741 富田 嘉一 60無元
 一選管最終発表

南 足 柄 市

(定数26—30)

当 1623 内田 政克 55無新
 当 1431 桜井 靖真 46無新
 当 1322 奥津 憲治 67無新
 当 1179 生沼 清 60無新
 当 1113 奥津 哲 54無新
 当 1050 大川 憲司 48無新
 当 1042 矢刈 高子 48公現
 当 1041 碓井 市郎 68無現
 当 979 南谷 武雄 63無現
 当 976 大沢 正夫 54社現
 当 900 安藤 克己 52無新
 当 863 内藤益太郎 67無現
 当 834 神戸美智雄 58社現
 当 826 庵原 寿雄 61無現
 当 782 清水 檢 60無新

当 779 渡辺 昭治 48公新
 当 759 露木 長治 68無現
 当 748 田代 洋任 55無現
 当 730 大角 共栄 48無新
 当 709 鈴木 正行 63無新
 当 697 深瀬 貞兵 72無現
 当 673 渡辺 志二 62共現
 当 635 石井 昭 61無新
 当 614 山口 米久 61無新
 当 609 瀬戸 住一 58共現
 当 583 石塚 昭 61無現
 当 558 小野 伸石 66無現
 当 506 矢後 弘行 63無現
 当 471 石塚 肇一 72自現
 当 466 大津 渡 64無現
 一選管最終発表

綾 瀬 市

(定数26—27)

当 2311 石渡 洋司 53無現
 当 1804 近藤 洋 47無現
 当 1794 守矢 保 69無現
 当 1591 千葉 君男 54民現
 当 1556 小俣 正年 59公現
 当 1529 笠間 智枝 58社現
 当 1521 山田 晴義 42無新
 当 1440 古屋 好美 50公現
 当 1406 上田 祐子 34共新
 当 1396 古川 重夫 50無現
 当 1258 増田 昭八 57公現
 当 1222 篠崎 徳治 57無現
 当 1220 柏木 井 66無現
 当 1218 鈴木 保 68無現
 当 1179 望月 宏治 51無現
 当 1142 森山 義雄 60無現
 当 1093 渡井 正良 59無現
 当 1085 見上 喜良 62無現
 当 1061 山口 慶治 62無新
 当 1018 松本 春男 39共現
 当 1016 内藤 寛 58無元
 当 1000 渡部 泰 61無元
 当 972 大和多吉平 63無現
 当 817 新倉 市造 62社現
 当 727 大友 勇 46社現
 当 698 中村 清法 61無新
 当 369 清水 吉美 54無新
 一選管最終発表

1991年8月25日

自治研かながわ月報第30号(1991年8月号,通算94号)

発行所 社団法人 神奈川県地方自治研究センター
発行人 横山桂次 編集人 上林得郎 定価1部 500円
〒232 横浜市南区高根町1-3 神奈川県地域労働文化会館4F
☎ 045(251)9721(代表) FAX 045(251)3199
振替口座 労働金庫本店 1365-1195174 横浜銀行市庁舎支店 317-709629

会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月 1,000円、賛助会員月 500円のどちらかを選び、半年または1年分をそえてお申しこみください。
3. 詳細は自治研センター事務局 ☎ 045 (251)9721へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が隔月送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A5判・120~150ページ定価450円)が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。